2026 in みえ PTA

第82回

日本PTA東海北陸ブロック研究大会

三重大会

つながり つなげる

～ええやん！つながりみえるPTA～

令和8年10月30日[金]・31日[土]

分科会

柿安シティホール・四日市市文化会館

イスのサンケイホール鈴鹿・亀山市文化会館

全体会

四日市市文化会館

主催：日本PTA東海北陸ブロック協議会　三重県PTA連合会

後援：文部科学省　公益社団法人日本PTA全国協議会
三重県教育委員会　四日市市教育委員会　桑名市教育委員会　鈴鹿市教育委員会
亀山市教育委員会　いなべ市教育委員会　木曽岬町教育委員会　東員町教育委員会
菰野町教育委員会　朝日町教育委員会　川越町教育委員会　三重県小中学校長会



PTAのみんなが集まりつながって、子どもたちの明るい未来を育てる輪が広がっていく大会になることをイメージしてシンボルマークを作りました。
PTA東海北陸ブロックの愛知県、名古屋市、三重県、岐阜県、富山県、石川県、福井県、６県１市のみんなの手をつなげてひとつの輪にしました。その輪の中に今回の大会が開催される三重県の豊かな山や海、そして暮らしている町や家、学校を入れました。丸と線で人、海を２本の線で表現したり、できるだけシンプルにして親しみやすく覚えやすいようにしました。人が集まって活気のある大会になるように元気な色をたくさん使いました。

鈴鹿市立鈴峰中学校　伊藤　嘉章

目 次

ＰＴＡの歌 …… 4

ごあいさつ …… 5

開催要項 …… 7

大会日程 …… 8

分科会一覧 …… 9

表彰 ……11

会場マップ ……12

次年度開催地（富山県）案内 ……13

分科会

- ● 第１分科会 ……14
- ● 第２分科会 ……24
- ● 第３分科会 ……34
- ● 第４分科会 ……44
- ● 第５分科会 ……54
- ● 第６分科会 ……64

全体会 ……74
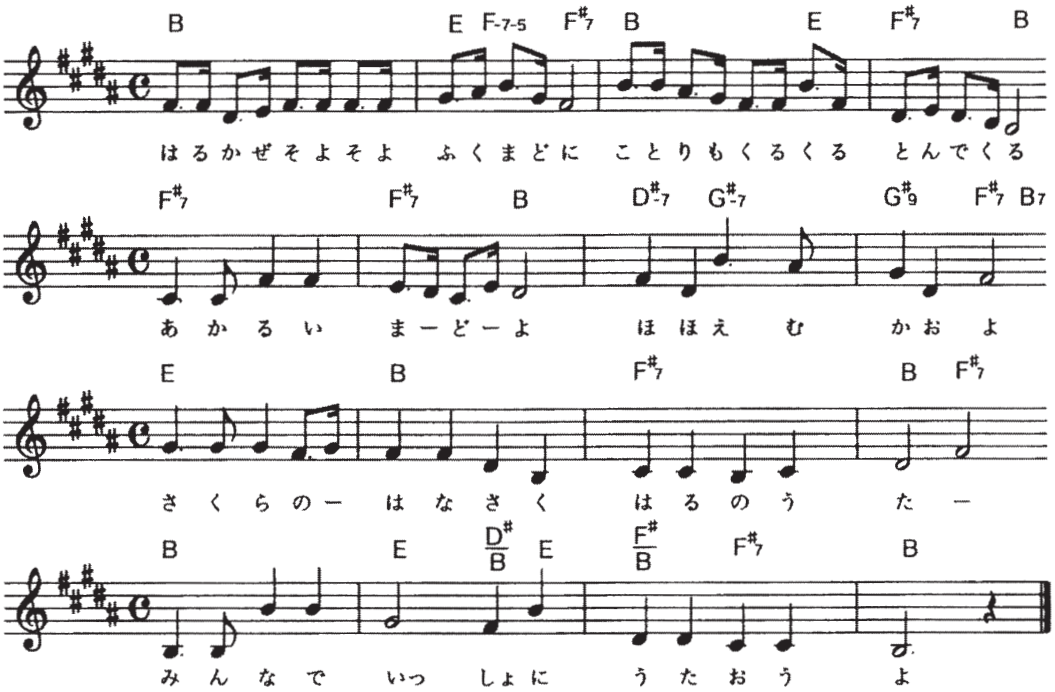
情報交換会 ……77

日本ＰＴＡ東海北陸ブロック研究大会実施県･市一覧 ……85

大会役員・大会実行委員会 ……87

PTAの歌

春西古宮　日条関本　紅八裕一　路十而　作補作編　詞詞曲曲



一. 春風そよそよ　吹く窓に
小鳥もくるくる　とんで来る
明るい窓よ　ほほえむ顔よ
さくらの花咲く　春の唄
みんなでいっしょに　うたおうよ

二. みどりに輝く　学校が
明るい家庭を　よんでいる
希望の町よ　希望の村よ
文化の光に　手をのべて
子どもといっしょに　進もうよ

三. あふれる力に　健康に
子どもが呼んでる　おどってる
みのりの秋よ　もみじの丘よ
こころも楽しいハイキング
子どもといっしょに　おどろうよ

四. 世界を結んだ　大空に
ひびいて子どもの　胸が鳴る
あしたの鐘よ　夕べの鐘よ
平和で住みよい　日本を
みんなでいっしょに　つくろうよ



東海北陸ブロックＰＴＡ協議会
三重県ＰＴＡ連合会
会　長　　木　原　剛　弘

はじめに今年７月に発生いたしました令和８年熊本地震や、各地での豪雨災害で被災されましたみなさまに心からお見舞いを申し上げます。

さて、東海北陸の各地より多くのみなさまをお迎えし、第82回日本PTA東海北陸ブロック研究大会三重大会を開催できますことを、心より感謝申し上げますとともに、日頃より子どもたちのための活動にご尽力いただいておりますことに改めて敬意を表します。

本大会は主題を「つながり　つなげる」とさせていただきました。東海北陸の各地にはそれぞれに歴史や文化があり、PTA活動にも地域ごとの特色があります。その各地から仲間が集い、学び、交流することは大変意義深いものであると考えています。

また、たとえ歴史や文化が違ったとしても、子どもたちの幸福を願う想いは共通しているはずです。この共通する想いをもつ仲間が集い、学び合うことで「つながり」が生まれます。私たちはこの「つながり」を、家庭・学校・地域と力を合わせながら、より大きなものにしていかなければなりません。

急激な少子化、共働き世帯の増加、地域コミュニティの希薄化、デジタル化の推進、グローバル化、価値観の多様化など、社会が大きく変化する中、子どもたちは予測困難な時代を生きています。こうした不透明な時代だからこそ、子どもたちが自らの人生を主体的に切り開き、様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を育むことが求められます。そのためには、私たち大人が学びや「つながり」を大切にし、子どもたちを取り巻く環境について理解を深めていくことが必要ではないでしょうか。

私たちは、長きにわたりこの活動にご尽力いただいた先達のみなさまに敬意を表するとともに、そのバトンをしっかり受け継ぎ、今の時代に即したものへと見直しながら、これからを生きる子どもたちのために次の世代へつなげていかなくてはなりません。このような様々な「つながり」こそが、子どもたちのより良い未来を築く原動力であると確信しています。

そうした意味におきましても、本大会にご参加いただいたみなさまに改めて感謝を申し上げますとともに、本大会での気づきや学び、「つながり」がそれぞれの地域でのＰＴＡ活動につながっていくことをご期待申し上げます。

最後になりましたが、本大会の開催にあたりご尽力いただきました関係各位に衷心よりお礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



公益社団法人　日本ＰＴＡ全国協議会
会　長　　太　田　敬　介

第82回日本PTA東海北陸ブロック研究大会三重大会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、このたびの令和８年熊本地震や令和８年８月千葉豪雨をはじめ、各地で相次ぐ自然災害によりお亡くなりになられた方々に、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災されたすべての皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の１日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。

本大会は、「つながり　つなげる　～ええやん！つながりみえるPTA～」を大会テーマに掲げ、東海北陸各地から多くのPTA会員、教育関係者の皆様が三重の地に集い、盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

人口減少や少子高齢化、共働き世帯の増加、地域コミュニティの希薄化、デジタル化の進展など、子供たちを取り巻く環境は大きく変化しています。こうした時代だからこそ、PTAにおいても、これまでの活動の良さを継承しつつ、今の時代にふさわしい活動の在り方に進化していくことが求められています。

PTAの原点は、子供たちの健やかな成長と幸せを願う保護者と教職員が、ともに学び、家庭・学校・地域の力を合わせていくことにあります。それぞれの地域や学校によって環境や課題は異なりますが、「子供たちのために」という共通の思いによって人と人がつながり、そのつながりを次の世代へとつなげていくことこそ、PTAの大切な役割ではないでしょうか。

本大会では、三重県内４会場、６つの分科会において、子供たちの思いやりと責任、家庭教育、地域とのつながり、持続可能なPTA活動など、多様な実践をもとに学びを深めます。ここ三重の地で生まれる学びと出会いが、新たな気づきやつながりとなり、それぞれの地域におけるこれからのPTA活動へとつながっていくことを期待しております。

結びに、本大会の開催にご尽力いただきました日本PTA東海北陸ブロック協議会、三重県PTA連合会、実行委員会をはじめ、関係各位に深く敬意と感謝を申し上げますとともに、本大会のご成功と、東海北陸各地のPTA活動のさらなる発展を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

開 催 要 項

1 趣　旨

東海北陸ブロック６県１市のPTA会員が一堂に会し、PTAの当面する今日的課題について研究・実践・活動した成果をもとに討議を深める。

さらに、６県１市のPTA活動の情報交換を行い、互いに協力してPTA活動の振興に資する。

2 大会主題

つながり つなげる　～ええやん！つながりみえるPTA！～

先人たちは何を想い、この活動をはじめたのか。

人口減少、少子高齢化、共働き世帯の増加、地域コミュニティの希薄化、デジタル化の進展、経済格差の拡大など、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。

82年をむかえたこの研究大会は、改めてその原点を見つめ直す必要があるのではないでしょうか。本質を捉え、私たちの立ち位置を見つめ直し、いまに即した活動の在り方を模索する必要があります。

子どもたちがのびのびと健やかに育まれるためには、人と人のつながりが不可欠です。あらためて「学校」「地域」「家庭」のつながり（連携）におけるPTAの役割を再認識し、令和時代のPTA活動の構築へとつなげます。

3 主　催

日本PTA東海北陸ブロック協議会、三重県PTA連合会

4 後　援

文部科学省　公益社団法人日本PTA全国協議会
三重県教育委員会　四日市市教育委員会　桑名市教育委員会　鈴鹿市教育委員会
亀山市教育委員会　いなべ市教育委員会　木曽岬町教育委員会　東員町教育委員会
菰野町教育委員会　朝日町教育委員会　川越町教育委員会　三重県小中学校長会

5 期　日

令和8年10月30日（金）・31日（土）

6 参 加 者

東海北陸ブロックを構成する６県１市のPTA関係者　1,600名

7 会場・概要

分科会会場　桑名市・四日市市・鈴鹿市・亀山市　４施設６会場

分科会	会　場	参加期待数	発表PTA
第１分科会	桑名市柿安シティホール 大ホール	300名	石川県羽咋市立邑知中学校PTA 三重県桑名市立城南小学校PTA
第２分科会	亀山市文化会館	200名	愛知県豊川市立御油小学校PTA 三重県亀山市立川崎小学校PTA
第３分科会	桑名市柿安シティホール 小ホール	200名	福井県坂井市立三国中学校PTA 三重県東員町立三和小学校PTA
第４分科会	四日市市文化会館　第１ホール	400名	名古屋市立中根小学校PTA 三重県四日市市立南中学校PTA
第５分科会	イスのサンケイホール鈴鹿	300名	岐阜県高山市立東山中学校PTA 三重県鈴鹿市立天栄小学校PTA
第６分科会	四日市市文化会館　第２ホール	200名	富山県南砺市立福光東部小学校育友会 三重県朝日町立朝日中学校PTA

全体会会場　四日市市文化会館　第１ホール

内　容

① オープニング	② 開会式	記念講演	④ 閉会式
四日市諏訪太鼓振興会 子ども諏訪太鼓	・閉会宣言 ・国歌･PTAの歌斉唱 ・主催者挨拶 ・シンボルマーク表彰 ・功労者表彰 ・来賓祝辞・来賓紹介 ・祝電披露 ・次期開催地紹介 ・閉会の言葉	強く生きるためのヒント ～野々村友紀子が伝えたい人生で大事なこと～ 【講 師】野々村友紀子 氏 〈放送作家〉	・感謝状贈呈 ・実行委員長お礼の言葉 ・閉会の言葉

大会日程

第１日目　10月30日（金）

分科会

13：00　受付
13：30　開会式
　　開会宣言
　　来賓挨拶
13：35　実践発表①
　　質疑応答　助言
　　実践発表②
　　質疑応答　助言
14：50　休憩
15：00　講演
15：55　閉会式
　　閉会のことば
16：30　分科会終了

第２日目　10月31日（土）

全体会

8 ：30　受付
9 ：00　オープニングアトラクション
9 ：30　開会式
　　１.閉会宣言　２.国歌斉唱　３.PTAの歌斉唱
　　４.主催者挨拶　５.表彰　６.来賓祝辞
　　７.来賓紹介　８.祝電披露
　　９.次期開催地紹介　10.閉式のことば
10：20　休憩
10：30　記念講演
12：10　閉会式
　　１.感謝状贈呈　２.お礼のことば　３.閉会宣言
12：20　全体会終了

分科会一覧

第１分科会

会 場　柿安シティホール　大ホール

発 表 校

◆思いやりの心と責任感を持ち、積極的に行動する生徒を育てるＰＴＡ活動
～保護者・学校・地域の連携を通して～
／石川県羽咋市立邑知中学校PTA

◆こどもと絵本とお話しマムと　～心の種を育てる読み聞かせ～
／三重県桑名市立城南小学校PTA

助 言 者　桑名市教育委員会　教育研究所　所長　難波　慶子
桑名市教育委員会　教育指導課教育指導係　係長　生川　数馬

講　　演

◆子どもの才能を育むコーチングコミュニケーション　～人と人との関わりの中で育む未来への力～

講演講師　共創コーチング株式会社　代表取締役　稲垣　友仁

第２分科会

会 場　亀山市文化会館

発 表 校

◆家庭教育力の強化を図ろう　～子どもたちの健やかな成長を支えよう～
／愛知県豊川市立御油小学校PTA

◆ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれるPTAをめざして　～地域と協創する活動実践～
／三重県亀山市立川崎小学校PTA

助 言 者　亀山市教育委員会　教育推進課　課長　谷　伸

講　　演

◆大人が正解を手放したとき、子どもは考え始める　～失敗を恐れない子を育てる声かけと関わり～

講演講師　スコーレ倭　代表　湯浅　秀紀

第３分科会

会 場　柿安シティホール　小ホール

発 表 校

◆三国の20年後を見据えた“未来づくり”～アンケートからわかること～
／福井県坂井市立三国中学校PTA

◆Ｐ（ポジティブに）Ｔ（楽しく）Ａ（明るく・温かい）活動を通して、子どもも大人も笑顔に！
～PTA活動を「続けたくなる」組織にするために、今必要なこと～
／三重県東員町立三和小学校PTA

助 言 者　東員町教育委員会　学校教育課　主査兼指導主事　武笠　主

講　　演

◆みんなで子育て　～東員町が考える学校運営協議会の型～

講演講師　東員町教育委員会　学校教育課　特命監　辻　哲哉

第４分科会　会 場　四日市市文化会館　第１ホール

発 表 校

◆Ｈｉアプリで広がる・つながるPTA活動の輪
～「できるときに、できることを」を形にしたエントリー制の実践～
／名古屋市立中根小学校PTA

◆つながる絵本プロジェクトで、つながる校区、つながる地域　／三重県四日市市立南中学校PTA

助 言 者　四日市市立中部中学校　校長　坂下　亮介
四日市市教育委員会教育推進課副参事兼課長補佐　重内　庸司

講　　演

◆子どもに安心を届ける～不登校を予防する言葉かけ～

講演講師　ちばＴラボ代表、元北海道公立中学校教諭　千葉　孝司

第５分科会　会 場　イスのサンケイホール鈴鹿

発 表 校

◆PTAによる地域活動　～ほだか会～
／岐阜県高山市立東山中学校PTA

◆150年の歴史を未来へつなぐ学校再編へのあゆみ　～地域・保護者・学校が一緒に考え進んだ道～
／三重県鈴鹿市立天栄小学校PTA

助 言 者　鈴鹿市立栄小学校　校長　松本　　博

講　　演

◆生きてるだけで百点満点！　～しあわせを伝えよう～

講演講師　助産師　林　みち子

第６分科会　会 場　四日市市文化会館　第２ホール

発 表 校

◆次代につなぐ福光東部小育友会
～学校統合を控え、より一層地域での顔の見える関係づくりを目指して～
／富山県南砺市立福光東部小学校PTA

◆持続可能なPTA活動の在り方を模索して
～「全部会廃止」から始まる、令和の時代に即した新たなパートナーシップの構築～
／三重県朝日町立朝日中学校育友会

助 言 者　朝日町教育委員会教育課　指導担当課長兼指導主事　藤田　貴大

講　　演

◆小規模化する学校　～教育の質は確保できるのか～

講演講師　三重大学特命教授（地域連携担当）、前三重県教育委員会教育長
福永　和伸

第82回日本ＰＴＡ東海北陸ブロック研究大会三重大会

表彰者名簿

1　表彰者名

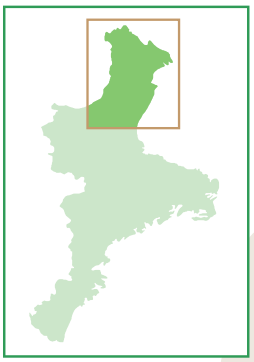
県・市	被表彰候補者名	役　職（前職）	備　考
富　山　県	沼田（ぬまだ）　秀和（ひでかず）	会　　長	
〃	大澤（おおさわ）　恒寛（つねひろ）	副　会　長	
岐　阜　県	阿部（あべ）　雄介（ゆうすけ）	会　　長	
名古屋市	尾関（おぜき）　利昌（としまさ）	会　　長	
愛　知　県	市岡（いちおか）　重人（しげと）	会　　長	
〃	田中（たなか）　優子（ゆうこ）	副　会　長	
〃	鈴木（すずき）　貴晶（たかまさ）	副　会　長	
福　井　県	笠松（かさまつ）　照喜（てるよし）	会　　長	
〃	竹村（たけむら）　鮎美（あゆみ）	副　会　長	
三　重　県	髙井（たかい）　真寿美（ますみ）	副　会　長	

2　感謝状受賞者名

県・市	被表彰候補者名	役　職	備　考
名古屋市	鹿谷（しかや）　和子（かずこ）	事務局員	

会場マップ

150th Anniversary
三重県誕生
150周年



1・3 第1分科会・第3分科会

■会 場

柿安シティホール

桑名市中央町三丁目20

TEL 0594-22-8511

■アクセス

ＪＲ・近鉄桑名駅から徒歩10分

全 4・6 全体会 第4分科会・第6分科会

■会 場

四日市市文化会館

四日市市安島二丁目5−3

TEL 059-354-4501

■アクセス

近鉄四日市駅から徒歩10分

5 第5分科会

■会 場

イスのサンケイホール鈴鹿

鈴鹿市神戸一丁目18−18

TEL 059-382-0654

■アクセス

近鉄鈴鹿市駅から徒歩6分

2 第2分科会

■会 場

亀山市文化会館

亀山市東御幸町63番地

TEL 0595-82-7111

■アクセス

ＪＲ亀山駅から徒歩7分

祝　第82回日本PTA東海北陸ブロック研究大会　三重大会



キトキトとやまなび
ワンチームで未来へ

第83回　日本ＰＴＡ東海北陸ブロック研究大会

富山大会

令和９年 10月29日(金)
30日(土)

会場　富山市芸術文化ホール 他
（オーバード・ホール）



主催　｜　日本PTA東海北陸ブロック協議会　富山県PTA連合会

第１分科会

柿安シティホール

大ホール



第１分科会

会 場　柿安シティホール　大ホール

発表テーマと発表PTA

◆思いやりの心と責任感を持ち、積極的に行動する生徒を育てるPTA活動
～保護者・学校・地域の連携を通して～
／石川県羽咋市立邑知中学校PTA

◆こどもと絵本とお話しマムと　～心の種を育てる読み聞かせ～
／三重県桑名市立城南小学校PTA

助　言　者

●桑名市教育委員会　教育研究所　所長　難波　慶子
●桑名市教育委員会　教育指導課教育指導係　係長　生川　数馬

講　　演

◆子どもの才能を育むコーチングコミュニケーション
～人と人との関わりの中で育む未来への力～

講 演 講 師

●共創コーチング株式会社　代表取締役　稲垣　友仁

思いやりの心と責任感を持ち、積極的に行動する生徒を育てるＰＴＡ活動
～ 保護者・学校・地域の連携を通して ～

石川県羽咋市立邑知中学校ＰＴＡ
会　長　　山　吹　　翔

１　はじめに

邑知（おうち）中学校は、能登半島の付け根にあたる羽咋市にあり、豊かな自然環境に囲まれている。１つの小学校と１つの中学校という小さな校区で、全校生徒９２名という小規模校であることから、保護者同士のつながりも深い。

今年５月には本州初となるトキの放鳥が行われ、県内外からも注目されている地域である。

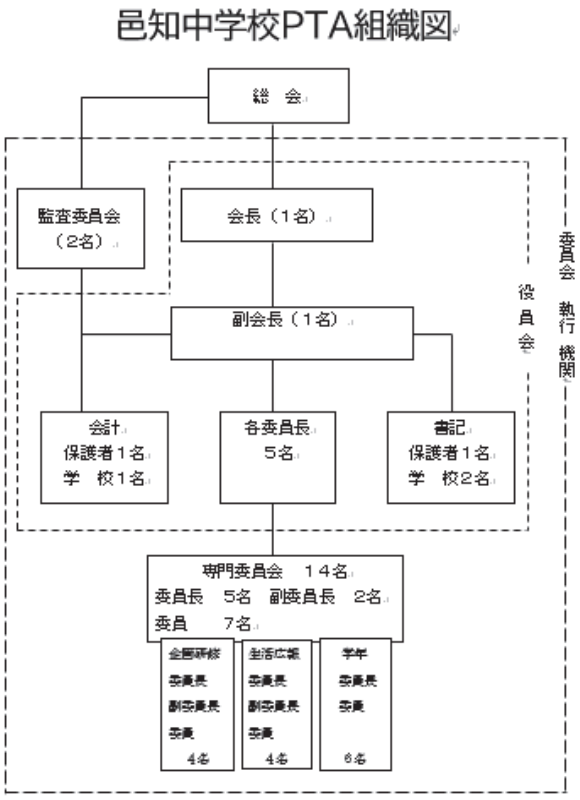


また、今年度は羽咋市の千里浜海岸で、ふるさと教育の一環として、市内全小中学校で合同マラソン大会が行われるなど、地域と密着した活動が積極的に行われている。



ＰＴＡとして、学校・地域に誇りを持ち、責任ある行動ができる生徒を育てるため、保護者・学校・地域が連携したＰＴＡ活動を積極的に推進している。

邑知中学校ＰＴＡは、全会員８０名。役員１１名（会長、副会長、書記、会計各１名、委員長５名、監事２名）と専門委員会１４名と会員で組織されている。委員会は企画研修委員会、生活広報委員会、学年委員会の３つで構成されており、それぞれの委員会が活動を企画、運営し、ＰＴＡ活動を進めている。



２　活動の実践

(1) 共通の体験活動を通して
～共通の話題がもてるように～

ア　資源回収

年２回６月と９月に行われ、古紙（新聞雑誌段ボール）やアルミ缶など、校区全世帯に呼びかけ、それぞれの地区担当の親子で回収している。企画研修委員会が中心となって全世帯にチラシを配付し、行っている。時期をずらして小学校も実施しており地区全体では年４回の資源回収が継続的に行われている。子どもがいない家庭でも、

小中学校に協力的で、たくさんの資源を出してくださる。地区担当の親子が回収をしており、親子で軽トラ等に乗り、荷物を運搬する姿は大変ほほえましい。

例年１０万円以上の収入があり、学校備品（大型モニター、校内掲示板、デジタルカメラ等）を購入し、教育活動に役立ててもらっている。



イ　奉仕作業（グラウンド・花壇清掃）

資源回収の前に、全校生徒と保護者によるグラウンドの除草・花壇除草を行っている。毎年、場所の割り当てを変更しながらほぼ１００％の参加率で行っている。草刈り機を持参する方が多く、広範囲を短時間で行っている。



ウ　親子学習会（各学年）

１年生は保護者による職業講話、２年生は高校の先生を招いての高校説明会、３年生は進路説明会を行い、進路や将来を共に考えるきっかけにしている。

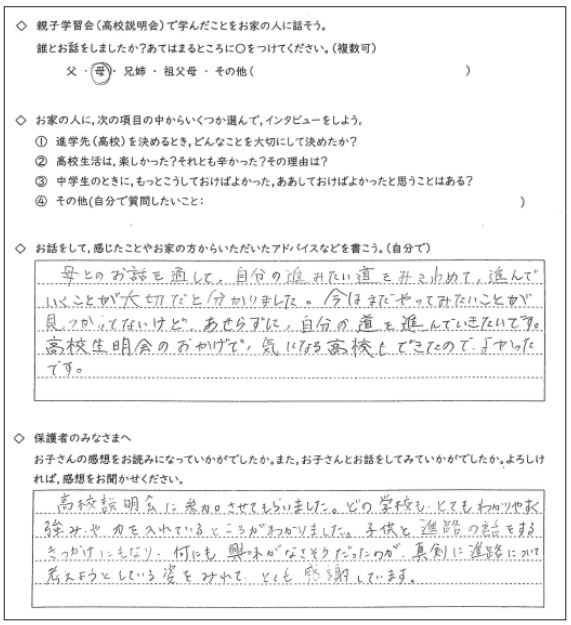
特に１年生では、保護者が講師となり、子ども達に、働く意義や、苦労、思いなどを熱く語っている。昨年度は消防士、整備士、看護師の仕事について話していただいた。身近な大人の話す姿は、親にとっても、子どもにとってもよい機会になっている。

＜１年生職業講話＞





＜２年生高校説明会＞


◇ 親子学習会（高校説明会）で学んだことをお家の人に話そう。
誰とお話をしましたか？あてはまるところに○をつけてください。（複数可）
父・母・兄姉・祖父母・その他（　　）

◇ お家の人に，次の項目の中からいくつか選んで，インタビューをしよう。
① 進学先（高校）を決めるとき，どんなことを大切にして決めたか？
② 高校生活は，楽しかった？それとも辛かった？その理由は？
③ 中学生のときに，もっとこうしておけばよかった，ああしておけばよかったと思うことはある？
④ その他（自分で質問したいこと：　　）

◇ お話をして，感じたことやお家の方からいただいたアドバイスなどを書こう。（自分で）
母とのお話を通して，自分の憧れたい道を見つめて，進んでいくことが大切だと分かりました。今はまだやってみたいことが見つかってないけど，あせらずに，自分の道を進んでいきたいです。高校生説明会のおかげで，気になる高校もできたので「やった」です。

◇ 保護者のみなさまへ
お子さんの感想をお読みになっていかがでしたか。また，お子さんとお話をしてみていかがでしたか。よろしければ，感想をお聞かせください。
高校説明会に参加させてもらいました。どの学校もとてもわかりやすく，体験や声を入れているところがわかりました。子供と進路の話をするきっかけにもなり，何にも興味がなさそうだったわが子が，真剣に進路について考えようとしている姿をみれて，とても感動しています。

エ　親子学習会（ウェルビーイング）

「親子で学ぶウェルビーイング」と題し、金沢工業大の平真由子准教授をお招きして、保護者・教職員・異学年生徒が混じった小グループで、ウェルビーイングカードを使って、ワークショップを行った。ウェルビーイングについて学び、互いの価値

観を尊重しつつ、邑知中をよりよくするために何ができるかを考えた。参観ではなく対等に会話する形をとり、親子共に大変好評だった。

＜保護者の感想から＞



とても貴重な体験でした。私は３年生の保護者ですが今回１年生２年生のこどもとも初めて意見交換ができ１人１人しっかりとした考えを持っていて、とても感心しました。邑知中学校の生徒数は少ないですがどの学年もとても仲が良く本当に素敵だと思っていましたが、今回改めてそう感じました。『“Well being” １人１人の思いを大事にする』忙しい日常でもこれをこれからさらに大事にしていきたいと思うきっかけになりました。平先生、生徒のみなさんありがとうございました。

オ　学校公開（授業参観）

毎年１１月の学校公開では、総合的な学習の発表会をしており、保護者の参加率も８割から９割と大変高い。邑知中の総合的



な学習における地域学習の発表は、保護者にとっても地域を学び、地域について考える良い機会となっている。

カ　広報紙「飛翔」卒業メッセージ



例年、３月の卒業に寄せて、全員の親子のメッセージを掲載している。多感な時期であるが、互いを思いやるやりとりで心温まる内容となっている。

＜ＰＴＡ広報「飛翔」＞





〇子ども：学校で過ごす時間も楽しいけれど、家ではやっぱり安心します。高校生活も楽しむことを忘れず、たくさん努力します。お願いします。

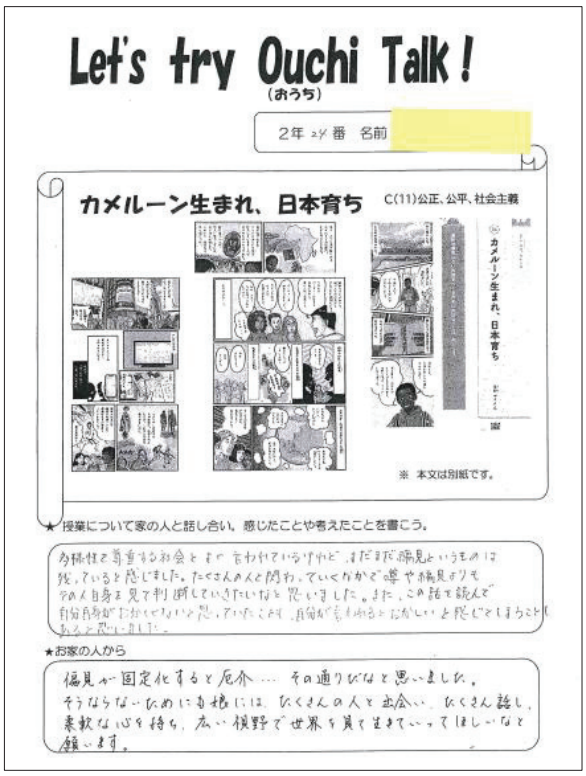
〇保護者：「よく遊び、よく学べ」だね。目標ができたらそこに向かって全力で挑戦し続けてください。家族みんなで応援しています。

キ　道徳（Ouchi Talk）の取組

道徳の時間の振り返りを、家庭に持ち帰り、保護者と話し合い、感想を書く。後日「道徳通信」として、意見や感想が掲載されているものが届く。道徳の授業に保護者として参加するという学校の教育活動への

参加が、共通の話題のもと、親子で語り合うきっかけになっている。

(2)　家庭の教育力向上をめざす


Let's try Ouchi Talk!
(おうち)
2年 2ｲ番 名前
カメルーン生まれ、日本育ち
C(11)公正、公平、社会正義
※ 本文は別紙です。
★授業について家の人と話し合い、感じたことや考えたことを書こう。
多様性を尊重するお会とまで言われているけど、まだまだ偏見というものは残っていると感じました。たくさんの人と関わっていくなかで噂や偏見だけで自分自身を見て判断していきたいなと思いました。また、この話を読んで自分自身がおかしくないと思っていたことが、相手が嫌がるとおかしいと感じてしまうことがあると思いました。
★お家の人から
偏見が固定化すると厄介…その通りだなと思いました。そうならないためには、たくさんの人と出会い、たくさん話し、柔軟な心を持ち、広い視野で世界を見てまわってほしいなと願います。


羽咋市立邑知中学校
1年1組
道徳通信
2026年2月27日（金）
保護者の方からのメッセージ
Let's try Ouchi Talk!
(おうち)
テーマ
～人が働く理由ってなんだろう。何のために働くのだろう～
君たちはどう生きるか
☆Let's Try Ouchi Talkでいただいた保護者の方からのメッセージを紹介させていただきます。いろいろな見方、考え方で自分自身の将来について考えるきっかけにしてもらえると嬉しいです。
【保護者の方より】
○ 働いていると、利用者さんと話すことで、こちら側も笑顔になれ、お礼を言っていただけると、より嬉しくなります。お金や収入は家族を養っていくために重要ですが、利用者さんからのお礼やふれあいが1番の癒しです。だからこそ、仕事は自分の好きで選び、仕事によって異なる喜びを見つけてください。
○ なりたい自分になるため、自己実現のために働くことも、とても大きなモチベーションになるのだと子供と話をしていて気が付きました。久しく忘れていた感覚で、自分にとっても働くことを見直すきっかけになりました。
○ 働く理由には本当に人それぞれの目的がありますね。「生活のため」や「自分の成長のため」「社会の役に立つ喜び」など様々だと思います。家族のためにお金は必要だけど、楽しくない仕事は続けられないね。働くことは大変なこともあるけど、楽しいし、色々な人に出会えて成長もできます。
○ 働くのは生活のためだけでなく、自分の成長や社会の役に立つためでもあります。どんな仕事も人や社会との関わりの中で成り立っていることを忘れずに、責任を持って取り組むことが大切だと思います。
○ 人とのかかわりによって仕事の内容も変わってきます。良い出会いがあれば楽しいし、合わない人もきっといます。その経験も必要になるし、やらないよりやった方が良かったと思える日も来ます。でも、無理なときは、家族や友人に相談しながら皆働いていますよ。
○ もちろんお金を稼いで生活するために働いているけど、お金のためだけに働くのでは面白くない。好きなことが仕事にできればよいがなかなか難しい。まずは、広く知識を養い、いろんなことに興味を持って、一生懸命に頑張れることを見つけて職業にできたら幸せだと思う。
○ 好きなことを選ぶことで、働くことを楽しむことができる可能性が高くなると思います。ついた仕事を楽しむ意識も大切で、それによって仕事がさらに好きになるのではないかと思います。
○ 今からコミュニケーションを通して人と関わる力を強めて、自分のやりたい仕事を見つけてください。
○ 働くことで、生活していくためや、あなたにとって欲しいもの、好きなこと（趣味）をするために必要な収入が得られます。仕事を通して誰かのために役立つと感謝されたり、できないことに挑戦してできるようになったり、達成感を味わえることもあります。職業を選ぶとき、自分に合うと思う職業、やりたいなと思う職業が見つけられるといいね！

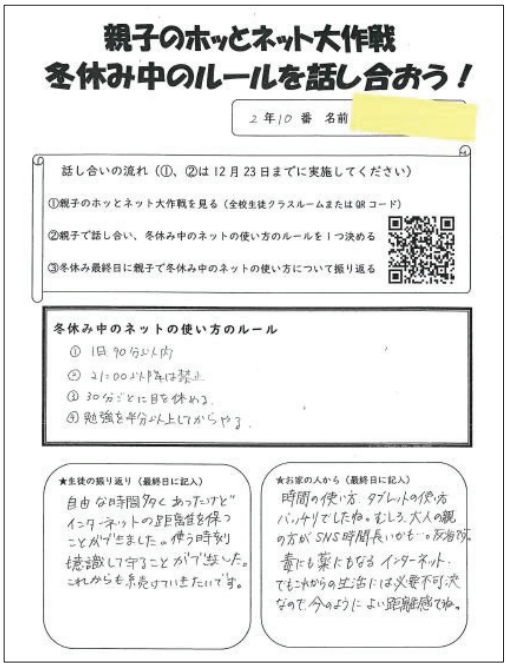
～学校と連携して～

ア　街頭指導（生活広報委員会）

交通安全指導を教職員と共に、役員が街頭に立って行っている（４月・９月）あいさつ運動と共に、交通ルールの遵守と並進禁止、ヘルメット着用を呼びかけている。

イ　情報モラルの醸成

「親子のホッとネット大作戦」（石川県・石川県教委作成）の冊子を利用して、家庭でのネットルールづくりを呼びかけ、携帯電話や端末等の適切な利用を考えていく取組を行った。学校での取組がきっかけとなり、普段親子で話しにくいことを話し合えるよい機会となった。


親子のホッとネット大作戦
冬休み中のルールを話し合おう！
2年10番 名前
話し合いの流れ（①、②は12月23日までに実施してください）
①親子のホッとネット大作戦を見る（全校生徒クラスルームまたはQRコード）
②親子で話し合い、冬休み中のネットの使い方のルールを1つ決める
③冬休み最終日に親子で冬休み中のネットの使い方について振り返る
冬休み中のネットの使い方のルール
① 1日90分以内
② 21:00以降は禁止
③ 30分ごとに目を休める
④ 勉強を半分以上してからやる
★生徒の振り返り（最終日に記入）
自由な時間多くあったけど"インターネットの距離感を保つことが"出来ました。使う時刻を意識して守ることができました。これからも気をつけたいです。
★お家の人から（最終日に記入）
時間の使い方、タブレットの使い方バッチリでしたね。むしろ、大人の親の方がSNS時間長いかも…。反省。毒にも薬にもなるインターネット。でもこれからの生活には必要不可欠なので今のようによい距離感でね。

3　おわりに

この邑知中学校では、どのＰＴＡ活動においても大変参加率が高い。そのことから分かるように、学校の様々な教育活動に全面的に協力していく事が伝統になっている。学校を全面的に信頼し、協力する風土は小学校からの流れでもある。地域も学校の教育活動に協力的であり、地域の方が地域学習の講師として快く参加してくれる。

少子化、情報モラル、SNS など今日的課題は多いが、家庭でできないことを学校での取組がきっかけとなり、親子で話し合いができる。今後も学校と協力して教育活動を進めていきたい。

こどもと絵本とお話しマムと
～ 心の種を育てる読み聞かせ ～

三重県桑名市立城南小学校 城南お話しマム
栗　田　麻　子

１　はじめに

(1) 地域の紹介

三重県の北東端に位置し、木曽三川（木曽川・長良川・揖斐川）の河口に開けた桑名市は古くから東海道の宿場町「桑名宿」として栄えた歴史ある水郷都市です。鹿鳴館で知られる建築家ジョサイア・コンドル設計による洋館と和風建築からなる、国の重要文化財「六華苑」、日本最大級の花と緑のテーマパーク「なばなの里」や絶叫マシンと温泉が楽しめる「ナガシマリゾート」があり、全国から多くの観光客が訪れます。江戸時代から「その手は桑名の焼き蛤」と謳われた名物のハマグリ料理や、伝統銘菓「安永餅」など、食の魅力も豊富です。

(2) 学校の紹介

本校は創立 154 年、明治時代からの長い歴史と伝統を持ち、地域に見守られながら歩みを続けている小学校です。自然豊かな三重県北部に位置し、西には鈴鹿山脈、東には伊勢湾を眺めることができます。本年度の全児童数は 353 名で、桑名市内では５番目に大きい学校です。自ら考え、心豊かに生きる子どもを育てる教育理念のもと、家庭や地域と一体となった「地域とともにある学校づくり」を積極的に目指しています。子どもたちは日々の学習や行事を通じて、かしこく、やさしく、たくましく生きる力を育んでいます。



２　城南お話しマムとは

(1) こんにちは！お話しマムです

私たちお話しマムは、城南小学校を中心に本の読み聞かせを行っているボランティアグループです。授業時間前の「朝の読書」の時間の読み聞かせを中心に、おはなし会、通信の発行など、楽しく本に親しんでもらうための活動を行っています。今年度のメンバーは１８名。うち１０名が現役小学生の保護者、８名は卒業生の保護者で構成されています。



(2) 昔々…お話しマムのはじまり

桑名市内の小学校で活動している読み聞かせのグループは多数ありますが、その中でもお話しマムの活動は特に早く、2000 年、３人のお母さんによって作られた絵本の読み聞かせグループ「おはなし・ネネム」が始まりです。当初は１年生と当時小学校に併設されていた幼稚園で読み聞かせを定期的に行っていました。活動が小学校に限られた頃から「お話しマム」と名前は変更しましたが、当初より「温かいお母さんの目線」を大切に、たくさんの保護者の協力のもと、リレーのバトンのようにメンバーからメンバーへ引き継がれ、現在まで続いています。創立時からのメンバーも１名、大活躍中です。「マム」と名前は付いていますが、現在「グランマ」も在籍しています。

３　お話しマムの一年間

(1) 朝の読書の時間

低学年は毎日の授業の前に、朝の読書の時間（朝読）があります。曜日、日数は、年度の初めに学校の先生と相談しますが、今年度は１・２年生は週に１回、３～６年生は月に１回程度、各教室で１０分間、本の長さにもよりますが１～３冊、季節や年代に合わせた本を選んで読んでいます。



朝読の風景

(2) 城南フェア

城南小学校では、秋にＰＴＡが中心となり校内で様々な体験ができる「城南フェア」というイベントが開催されます。お話しマムも、物語にちなんだ謎解きゲームやスタンプラリー、特別なおはなし会（昨年度は「こわいお話の部屋」）等、毎年趣向を凝らした企画で参加しています。

2019 年の城南フェアでは地元出身の絵本作家をお招きして、体育館で全校児童を対象とした大きなおはなし会に初めて挑戦し、その後の新たな活動につながりました。



城南フェア
手作り紙芝居
＆なぞとき

お話しマム通信「今日のおはなし、な～に？」



(3) お話しマム通信

年に数回、通信を発行しています。活動報告、朝読予定、夏休みに読みたくなる本の特集、朝読の時間に読んだ本の紹介、学校の先生のお薦め本など、自宅で通信を一緒に見てもらうことで、家族で図書館や本屋さんに足を運んだり、会話や本を手に取るきっかけとなったりすることを願っています。

(4) マムプラス

マムプラスとは、普段の朝読にプラスして、もっとお話を楽しんでもらうために、授業の１限（４５分）を使ったお話の時間です。内容や時期などを先生と相談の上、実施しています。季節やテーマに合わせた選書を行い、朝読に読むには長すぎる本をゆっくり楽しんだり、物語を聞くだけでなく、声を出したり、体を動かしたり、見たり触れたり考えたりするプログラムも。また、授業を発展させるようなプログラムやブックトークも要望があれば取り入れています。児童の人数や内容に合わせ、教室だけでなく図書室や体育館で行うこともあります。ここ数年は全学年で実施しています。



マムプラスが始まるきっかけとなったのは、コロナ禍の影響により、遠足、運動会、城南フェア等の中止や縮小化など、できないことだらけだった 2020 年、何かこどもたちのためにできることはないかと考え、授業時間を利用したおはなし会を先生に提案し、ご協力いただけたことです。ちょうど４年生は地域のことを学習している学年ということもあり、地元桑名に伝わる物語や中原中也の詩、松尾芭蕉の俳句など、クイズや物語マップ作りを楽しみながら、桑

名をめぐるプログラムとなりました。

(5) 本を手に取りやすい環境づくり

小学校の図書室には常勤の司書がおらず、たくさんの散らかった本を片付けるのも、図書委員の児童だけでは時間が到底足りません。定期的な整頓作業、また不定期ではありますが、ＰＴＡの保護者に声掛けをし「図書室片付け隊」と銘打って、高い場所など、こどもたちだけでは手に負えない学校図書室の清掃や、本の修繕に取り組んでいます。

(6) 地域とつながる活動

お話しマムは小学校だけではなく、地域の活動にも参加、協力しています。地域住民が主体となり活動しているまちづくり拠点施設では、夏休みに小学校の図書室の本を利用した出張図書館、親子で楽しむおはなし会､絵本を題材とした工作作り､また、小学校で行われた認知症サポーター講座では認知症に関する絵本の朗読も行いました。

３　お話しマムができること

(1)「今日のおはなし、な～に？」

朝読で小学校を訪問した時、こんな台詞をこどもたちからかけられることがあります。通信の名前にもなっています。

読み聞かせ活動をはじめた理由は、こどもにお願いされて、友人に誘われて、読み聞かせを聞いて感動して...等、メンバーにより様々ですが、私たちの活動の一番の原動力となっているのは、おはなしの時間を心待ちにしてくれているこどもたちの顔を見られることです。学校生活の一部に組み込まれた活動であることから、授業参観では見ることのできない自然な表情がとても印象的です。年齢を重ねれば自分で読めるようになるのだから、読み聞かせは低学年だけでよいのではという考えもあるかもしれませんが、高学年のこどもたちの心が動くような本との出会いに立ち会えた時には、何とも言えぬ喜びがあります。

(2) みんなちがってみんないい
～個性を活かした活動～

お話しマムが他の読み聞かせグループと比べて珍しいと言われるところは現役の保護者と卒業生の保護者が一緒に協力して活動を行っているところです。子育てや仕事に毎日フル回転のＰＴＡ現役マムさんを、ちょっと余裕のできたベテランマムさんが引っ張り、サポートできる体制になっています。年齢も仕事も得意なことも様々、お話しマムの企画の数々はそんなメンバーの個性を活かしたものになっています。皆が無理なく、楽しんでできる、そんな活動を目指しています。





活動に興味を持たれた方に一番尋ねられるのは「朝読の本は、どうやって選んでいるのですか？」という質問です。お話しマムでは、メンバーそれぞれが、自宅や地域の図書館のたくさんの本の中から自分の担当の日、担当の学年に合わせて選書を行っています。今月は昔話を選んでみようか？とか、二人で大型絵本を読まない？等、メンバー間で声掛けや相談、意見交換をすることもありますが、基本的にはそれぞれに任せています。この本は面白いと選んだ本も、学年によって、クラスによって、全然反応が違うことは多々あります。でもそれは当たり前のことで、面白いの基準も人それぞれ､こどもたち一人一人が違うように、お話しマムも一人一人違います。だからこそ、その違いを、こどもたちが今まで出会ったことのない色々な本に触れ合うチャンスだと考え、選書をお願いするようにして

います。

(3) どうしたらできる？

コロナ禍の際、お話しマムの活動も転換を求められました。活動を自粛するのは簡単なことです。しかし、ただでさえ色々なことが制限されている中、こどもたちのためになんとか続ける方法はないかと、学校と検討を重ねました。これまで、おしくらまんじゅうのように寄り集まって聞いていた朝読は、ソーシャルディスタンス確保のため、教室では一人ずつ離れた自分の席で聞くことに。おはなしをする時には教壇でマスクとフェイスシールドが必須になりました。また、後ろの席の児童には小さな絵本では見えません。同じ本を何冊か用意して近くで見てもらえる工夫をし、大型絵本や紙芝居、絵がなくても楽しめる物語を選びました。おはなしをする際、読み手も聞き手も、表情が見えるというのはとても大切なことです。実際に言葉を交わすことはできなくても、こどもたちの反応を見ながら、本を通じて会話をするような気持ちで読み聞かせを行いました。その結果、お話しマムのメンバーも活動も途絶えることなく、現在につながっています。

4　未来へバトンをつなぐ

(1) 人と人とのつながりを大切に

小学校で活動する読み聞かせ団体の中には在校生の保護者のみで活動する団体も多いかと思います。こどもが在籍している間は学校に足を運ぶ機会も多いため、意欲的に活動できますが、こどもの卒業に合わせて読み聞かせ活動を卒業するメンバーも多いのが現状です。学校との連携のために、各学年にメンバーがいることが理想ですが、共働き世帯も多く、平日の活動が難しい保護者も多いようです。現役世代と卒業生世代（地域ボランティア）がどのように関わり、活動を支え、引継いでいくのかが、課題です。

(2) こどもと先生の心を守るために

現在、お話しマムでは全学年の朝読、授業時間を利用したマムプラスなど、学校の理解と協力のもと、様々な活動を行っています。しかし、この活動も長年のお互いの信頼あってこそ、一朝一夕で可能になったわけではありません。過去には朝読も低学年のみという年度もありました。学校の働き方改革が求められる今、お話しマムの活動が、先生の負担軽減につながる取り組みの１つとして取り入れられ、こどもたち、そして見守る先生も一緒に物語に触れることで、ゆったりと心に余裕を持って一日を過ごしてもらえるよう、さらに知識や技術を磨く必要があると考えています。

5　お話しマムが大切にしていること
～心の種を育てよう～

絵本を広げると、こどもたちがこちらを見つめている目はいつも本当にキラキラしています。物語を聞き、想像し、心の種が育まれていく瞬間を共有し、見守ることができるのは、お話しマムのメンバーにとっても、とても貴重でかけがえのない時間です。継続していくことの難しさを感じることもありますが、この活動を通して学校や地域、人と人とのつながりを守っていくことで、こどもたちの笑顔と、未来の夢へのかけはしへとなるように。小学校でのおはなしの時間が、こどもたちにとって幸せな記憶の１ページとなりますように。そんな願いを込めながら、これからも活動を続けていきたいと思っています。



第２分科会

亀山市文化会館



第２分科会

会 場　亀山市文化会館

発表テーマと発表PTA

◆家庭教育力の強化を図ろう　～子どもたちの健やかな成長を支えよう～

／愛知県豊川市立御油小学校PTA

◆ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれるPTAをめざして
～地域と協創する活動実践～

／三重県亀山市立川崎小学校PTA

助　言　者

●亀山市教育委員会　教育推進課長　課長　　谷　　伸

講　　演

◆大人が正解を手放したとき、子どもは考え始める
～失敗を恐れない子を育てる声かけと関わり～

講 演 講 師

●スコーレ倭　代表　　湯浅　秀紀

家庭教育力の強化を図ろう
～ 子どもたちの健やかな成長を支えよう ～

愛知県豊川市立御油小学校ＰＴＡ
会　長　　石　黒　友　巳

１　はじめに

(1) 地域と学区の概要

豊川市は愛知県南東部に位置し、北側には県立自然公園に指定されている本宮山山麓が連なり、中央部から広がる平野の東部には一級河川豊川（とよがわ）の清流が流れ、そして南部では波穏やかな三河湾を望むことができ、「山、川、海」といった豊かな自然環境に恵まれています。古くは三河の国府が置かれ、この地方の政治・経済の中心として栄えてきました。近世以降は、東海道宿場町、豊川稲荷の門前町として多くの人に親しまれるまちでした。昭和 20 年には、東洋一といわれた豊川海軍工廠を中心とした地域が B-29 爆撃機の空襲にあい、2,500 人を超える尊い命が奪われ、まちが壊滅状態になるという悲惨な体験をしました。戦後、東名高速道路豊川インターチェンジの開設を機に、復興の道を歩み始めるとともに、豊川用水の通水に伴い、農業が盛んになり、スプレー菊、バラや大葉の栽培を中心とした施設園芸が発展しました。人口は 18 万５千人で東三河の拠点都市となっています。

御油地区は、豊川市西部にある、かつての東海道の宿場町にあります。特に、御油宿と隣接する赤坂宿へと続く「御油のマツ並木」は、国の天然記念物に指定されており、江戸時代の面影を残す風情ある場所として知られています。

(2) 本校の概要

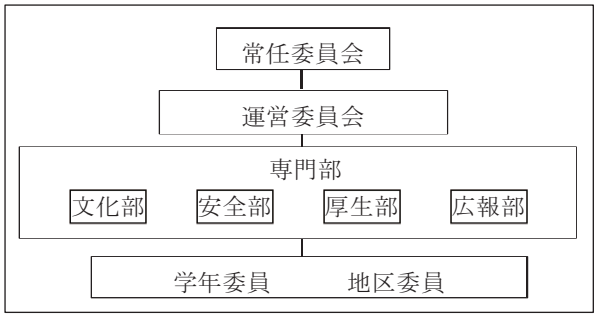
本校は、明治６年に第二大学区第四十五番御油小学校として設立され、令和５年には創立 150 周年を迎えた歴史ある学校です。昭和 34 年の豊川市への合併以降も、一町で構成される校区の特性を活かし、地域と密接に関わりながら歩んできました。開校当時は、児童数 108 人の学校でしたが、現在は全校児童数 478 名、特別支援学級７学級を含む 22 学級で構成されています。

本校の特色ある教育の一つが、生活科や総合的な学習の時間で６年間継続して行うマツ並木の学習です。地域の人々によって大切にされてきたマツ並木の保存には、本校の子どもたちも一役を買っています。５年生では、愛護会の方々に教えていただきマツの種まきを行います。６年生では卒業記念として、植樹もします。自分たちの手で植えた苗が、その瞬間から国の天然記念物となる、という体験は、郷土への深い愛着と誇りを育む貴重な機会となっています。



【松の植樹】

(3) ＰＴＡ組織について



本校のＰＴＡは、常任委員 11 名〔三役、書記・会計２名・部長４名（内１名は書記と兼任）・校長教頭〕と、運営委員（学年委員、地区委員）、一般会員で構成されています。

地区委員は校区内の各地区から、学年委員は各学年から選出されています。今年度は、合計 33 名（内３名は書記・会計と兼ねる）の方が参加しています。専門部は、文化部、安全部、厚生部、広報部の４つあり、各運営委員が一つの部に所属し、教育活動を支える活動を担っています。文化部は、主に給食試食会を計画、実施しています。安全部は、登校時の見守りを行っています。厚生部は、親子クリーン作戦を計画、実施しています。広報部はＰＴＡ新聞の編集、発行をしています。

御油小学校では、ＰＴＡ活動を通し、地域の大人たちが協力して、「子ども一人一人の成長に関心をもち、支え合おう」という思いを共有することで、家庭の教育力の向上をめざしています。

２　活動紹介

【御油小学校ＰＴＡ年間活動計画】

４月　ＰＴＡ総会（書面議決）、
　　新旧常任委員会、運営委員会
５月　運営委員会（書面）、救急救命講習会
６月　スマホ・ＳＮＳ安全教室
７月　三役選挙、ＰＴＡ新聞発行
８月　資源回収（コンテナ設置）
９月　親子クリーン活動
10 月　給食試食会、常任委員会、運営委員会
11 月　地区委員決め
１月　資源回収（コンテナ設置）、総括
２月　学年委員決め、来年度組織作り
３月　桜の植樹、会計監査

＊登校時の見守り活動は、毎月行う

本校では、保護者が参加できるＰＴＡ活動の充実を図り、積極的に学校と家庭が関わることで、より強い家庭教育力を育てる一助となると考え、学校の年間行事予定の中に保護者参加の行事を計画的に配置し、活動しています。以前は、ベルマーク回収や資源回収等の活動をＰＴＡで担っていましたが、コロナ禍以降、役員の負担を減らし、活動に参加しやすくするために活動を精選しました。

(1) 登校時の見守り立ち番

御油小学校は、町内の 10 地区から児童が通っています。それぞれの地区には１～３人の地区委員がおり、各地区１人が安全部に所属することになっています。登校時には主に安全部で月１回程度、地区の危険箇所に立ちます。地域の見守り隊や交通指導員の方々と共に子どもたちが安心して登校できる環境を作っています。



【登校時の見守り活動】

(2) スマホ・ＳＮＳ安全教室

４、５、６年生を対象に、情報モラルについて適切な知識を身につけ、スマホやＳＮＳの便利さと危険性、スマホやＳＮＳを使用する際に気をつけることなど、トラブル防止を目的としたスマホ・ＳＮＳ教室を実施しました。保護者にはビデオオンデマンドで大人向け講座を配信し、家庭視聴していただいたり、子どもが学校で学んだことを家庭で話題にしたりすることで、家庭でのルール作りの一助としていただけたのではないかと考えています。

(3) 救急救命講習会

水泳授業が始まる前に、消防署の方を講師に招いて実施しています。６年生の保護者と職員が、授業や夏休みのプール当番を務めるための備えとして、人形を使って心肺蘇生やＡＥＤの取扱い方を実践的に学びます。もしもの時に動けるという安心感が、学校活動への主体的な関わりを支えています。



【救急救命講習会】

(4) 親子クリーン活動

本校では、毎年９月の第３土曜日を授業参観日とし、授業参観後に通学団ごとに分かれて親子で環境整備に取り組んでいます。



【親子クリーン活動】

夏の間に大きく成長した草を取るのは、普段の子どもたちの清掃活動だけでは時間も人手も足りないところを、多くの保護者が参加してくださることで、短時間でもごみ袋 250 袋ほどの量の草を取ることができ、学校がきれいになりました。親子で一緒に活動することで、子どもたちにとっては、自分の学校を大切にする心を育む貴重な時間となり、保護者にとっては、子どもたちの学校での様子を知るよい機会となっています。また、親子だけでなく、地域の皆さんや職員ともコミュニケーションを図るよい機会となりました。

(5) 給食試食会

文化部が中心となって企画・運営し、１年生の保護者を対象として毎年 10 月に行っています。保護者にとっては、子どもたちの学校での食事の様子を見ることができるチャンスとなっているため、毎年たくさんの保護者の方に参加していただいています。令和７年度は 43 名の保護者の方が参加されました。普段、子どもたちが食べている給食を体験するとともに、給食の様子を見学したり、栄養教諭の話を聞いたりして、学校給食についての理解を深めています。



【給食試食会】

栄養教諭から、安全でおいしい給食を作る工夫や、栄養バランスについて話を聞いた後、子どもたちと同じように当番活動をし、給食をいただきました。この日のメニューは、「マーボー豆腐、ギョウザ、添え野菜、牛乳」でした。マーボー豆腐は子どもにも大人にも大人気で、豊川市の学校給食で人気ナンバー３のメニューです。食事中に栄養教諭から、「隠し味には味噌を使っているんですよ」という秘訣が明かされました。「おうちにあるもので味付けができますよ」というアドバイスは、親子の食卓を豊かにするヒントとなりました。楽しい雰囲気の中でいただいた給食は、ほぼ完食でした。食べ終わった後の片付けも子どもた

ちと同じように行い、給食の一連の流れを体験できました。

参加された保護者からは、「懐かしい給食の味を久しぶりに食べられてうれしかった」「子どもの頃に戻ったようで、とても楽しかった」といったうれしい声がたくさん聞かれました。

(6) 桜の植樹

本校と同じ中学校区には、もう１校小学校があります。その２校の６年生が御油小学校区にある東三河ふるさと公園に桜の苗木を植樹しました。この企画は両校のＰＴＡ会長を中心に、「子どもたちが中学校で出会う前に、少しでも交流できる機会を」という温かい発案から生まれました。数回の話し合いを経て、二つの小学校合同で桜の植樹を行うこととなりました。



【桜の植樹】

東三河ふるさと公園は、東三河の風景をテーマとした緑豊かな公園です。山の自然をそのまま生かした広い敷地には、四季折々の花が咲いています。ふるさと公園は、本校の校区にありますが、山はもう１校の校区まで続いています。その公園の一角に許可をいただいて植樹することとなりました。これから毎年植樹を行っていき、将来的には両校の校区を桜でつなげたいという壮大な願いも、この植樹活動には込められています。

当日は自由参加という形でしたが、たくさんの子どもたちと保護者の方が集まってくださいました。親子で言葉を交わしながら、穴を掘ったり土をかけたり、また子どもたちは小学校卒業後に同じ中学校へ通う仲間として作業に励む姿が見られ、卒業を前に学校の枠を超えた温かな思い出を作ることができた時間となりました。

３　成果と課題

(1) 成果

保護者がＰＴＡ活動に積極的にかかわり、学校行事を支えていることで、子どもたちをみんなで育てていこうとする空気を生み出しています。子どもたちが、「自分は大切にされている」「地域に見守られている」と感じられる環境を作ることが、子どもたちの健やかな成長を支える強固な土台となっています。

(2) 課題

コロナ禍以降、ＰＴＡ活動の在り方が見直され、ベルマーク回収の精選や会議の効率化を進めるなど、活動自体がなくなってしまったり規模を小さくして行われたりしています。ＰＴＡ活動が保護者にとって「負担感を強いる存在」になるのではなく、「子どもたちのためにどんなことができそうかと考える場」へと進化し続けることは今後も必要であると考えています。活動の見直しを進める一方で、保護者と学校、地域が対面で交流し、思いを共有する機会は以前にも増して貴重になっています。保護者と学校、地域がつながって、「みんなで子どもたちを育て、子どもたちの健やかな成長を支えていこう」という思いをどのように継承していくかが大きな課題です。今後も変化する社会情勢に合わせつつ、保護者・学校・地域の三者が手を取り合い、子どもたちを育んでいくことができるＰＴＡ活動となるよう、充実した活動に取り組んでいきたいと思っています。

ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれるＰＴＡをめざして
～ 地域と協創する活動実践 ～

三重県亀山市立川崎小学校ＰＴＡ
会　長　　町　野　　望

１　はじめに
(1) 校区・本校の概要

三重県亀山市に位置する本校は周辺に茶畑や田園が広がり、また、日本神話の英雄ヤマトタケルノミコトの御陵「能褒野神社」や、県史跡「峯城址」などが残る歴史的な地にあります。一方で、近隣には多くの企業が進出し、工業と農業が調和した活気あふれる地域です。

児童数４５０人、全１８学級（特別支援学級含む）の中規模校として、全国的な少子化に反し児童数は増加傾向にあり子ども達の明るい声が響いています。

令和７年度は、創立１５０周年という大きな節目を迎えました。「ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれるＰＴＡ」を目指してＰＴＡがどのように学校・地域と連携してきたか、その取組を報告します。

(2) 「共助」を根幹とした組織運営

本校ＰＴＡは「ボランティアであり、できる時に、できる人がする」というスタンスを活動の根幹に据えています。現在の本部役員は全員立候補であり、高い意欲が活動の原動力となっています。

組織は会長、副会長、書記、会計、顧問に加え、体育厚生部、教養広報部、環境事業部の３専門部で構成されています。原則２年任期制を採用し、１年目の部長経験者が翌年に会長・副会長・顧問へ昇り本部役員として留任することで、前年度の課題や改善したい点をダイレクトに次年度へ活かせる仕組みと、新任役員がいつでも安心して相談できる環境を確保しています。

(3) 柔軟な参画システム

私たち本部役員が最も留意しなければいけないことは、ＰＴＡ活動のために自分の家庭や子どもを犠牲にする「本末転倒」な事態です。役員の業務のために我が子に我慢を強いては、活動の本質から逸脱してしまいます。

そのため、役員の選出は、単に必要な人数だけ配置するのではなく、個人の専門性や家庭状況を最優先する「柔軟な参画システム」を運用しています。役員の中には９年間にわたり専門性を発揮する部長もあるなど、事情に応じた役割調整を行っています。さらには任期終了後に善意で顧問として引き続き本部組織に携わる役員もおり、精神的サポート体制が構築されています。保護者が楽しく活動に関わることが、結果として子どもたちの笑顔と「学びにあふれるＰＴＡ」の実現に繋がると考えています。

２　ＰＴＡと地域が協創する活動実践
(1) 想いを繋ぐクリアファイル

こうした「あたたかみのある組織」であるからこそ、創立１５０周年という大きな節目に、私たちは「形に残る、想いの繋がる記念品」を作り上げることが出来ました。

きっかけは卒業生でもあるＰＴＡ役員の「子どもの頃（３０年前の１２０周年当時）

にもらったクリアファイルを今も大切に持っている」という一言でした。自宅から探し出し見せてくれた当時のファイルは、単なる文房具ではなく、当時の大人たちが子どもたちに向けてくれた愛情の証だと感じました。「今の子どもたちにも、１５０周年という記念の年に在籍しているという幸運や、今回のように未来で感動を味わって欲しい」。この想いから、１５０周年記念クリアファイルの制作が決定しました。

クリアファイルにはもちろん子どもたちの写真を載せました。学校の全面協力を得て貴重な授業時間の中で校庭に「１５０」の人文字になるよう子どもたちと先生に並んでもらいました。

ＰＴＡ役員はドローンの免許を持つ地域の方に撮影を依頼し、撮っていただいた写真と広報部が撮影した全校児童の集合写真をクリアファイルのデザインとしました。

このファイルは単なる記念品の配布にとどまらず、子どもたちは自分たちの写真が載ったファイルを喜び、保護者はその姿を温かく見守り、わが子が歴史の節目に立ち会っている喜びを親子で分かち合う。そんな家庭での会話が、学校への愛着を育み、次世代へ想いを繋いでいくＰＴＡ活動を具現化したものとなりました。

(2) 地域とつくる日常の安全

過去と未来を繋ぐ一方で、私たちは地域と共に歩む「今」の活動にも力を注いでいます。

ＰＴＡと地域の真の連携は、毎日の登下校の見守り活動に象徴されます。各自治会の方々が、悪天候の日も毎日通学路に立ち、善意で子どもたちの安全を見守り続けてくださっています。

本校では保護者である地区委員、各自治会長、学校、ＰＴＡ役員が集う「子どもの安全を守る連絡会」を年２回開催しています。ここでは各地区での子どもたちの様子や防犯・交通事故防止について直接意見交換を行います。この「顔が見える」情報共有の場があるからこそ、ＰＴＡと地域が一体となって子どもたちの命を守る体制がつくられ、維持されているといえます。

(3) 地域総出でつくり上げるイベント

地域との信頼関係は、イベント時にも大きな力を発揮します。その象徴的なイベントが、毎年１１月に小学校を会場として開催される本校の恒例行事「川崎ふれあいフェスタ」です。これは学校運営協議会が主催し、まちづくり協議会や自治会連合会が共催するという、まさに地域総出で作り上げる一大イベントです。

１５０周年という記念の年となった昨年度は卒業生である一見三重県知事をお招きし、「ようこそ先輩」と題した特別授業を併催して、例年以上の盛り上がりを見せました。ＰＴＡはこのフェスタにおいて、「子どもたちが楽しく参加するにはどうすればよいか」を考え、学校と地域、そして保護者を結び付ける実働部隊としての役割を担いました。

ア 課題を共助で乗り越えたカレー

この行事で、毎年恒例となっているのがＰＴＡのカレー販売。しかし昨今の物価高騰は深刻で、例年通りの価格維持は困難を極めました。しかし、決められた金額を持ってフェスタに参加する子どもたちのため値段を上げることはできません。そこで私たちは学校や学校運営協議会を通じて地域に窮状を訴えました。 すると、保護者や地元の農家さんからお米や野菜が届き、精肉店さんからは良質な肉を安価でご提供いただくなど、多大な支援をいただきました。この「地域の協力で作りあげたカレー」は、子どもたちに地域の愛情を味覚として伝え

る食育の場ともなりました。



イ　地域企業と子どもをつなぐ

「川崎ふれあいフェスタ」では、ＰＴＡとしてカレー販売の他に、ろうそく・線香を製造販売する地元企業へ協力を依頼し、「ろうそく絵付け・におい袋作り」の体験ブースも展開しました。この体験ブースは、地域に住むろうそく職人のプロの技術に触れる貴重な機会として、子どもたちに絶大な人気を誇っています。ＰＴＡは、学校の協力を得ながら地域企業と子どもたちを繋ぐコーディネーターとしての役割を持ちました。



(4) 困難な時代と革新

地域総出で作り上げる「川崎ふれあいフェスタ」を大切に守り続ける一方で、私たちは時代の困難に合わせたＰＴＡ活動も模索してきました。その象徴が、今年で６年目を迎える「逃走中（鬼ごっこ）」です。

この活動のきっかけは、数年前のコロナ禍でした。当時、地域総出で作り上げる「川崎ふれあいフェスタ」は、感染拡大防止のため中止を余儀なくされました。運動会や修学旅行も制限され、子どもたちの楽しみが次々と失われていくなか、「このままでは小学校の思い出が作れないまま、６年生が卒業してしまう。違う形で何か思い出作りができないか。」そんな役員たちの切実な想いから、制限ばかりの時期に、校内だけで完結できるイベントとして企画されたのが、テレビ番組を模したこの「逃走中」でした。

「子どもたちの笑顔を絶やしたくない」という一心で、６年生の保護者や先生も参加し大人が鬼役となって子どもたちと一緒に校庭を全力で駆け回り、役員が考えたミッションを子どもたちがこなしながら楽しい時間を過ごしました。今では、子どもたちの意見を取り入れながら「逃走中」はさらに改良され、本校の新しい名物行事として続いています。



伝統である大きな行事が出来ないときでも、「今子どもたちのために出来ること」を必死に考えて実現させる、その想いと行動力が伝統と革新の両方を大切にするＰＴＡの姿勢として引き継がれています。

３　成果・実績

こうした活動の熱量を、ＰＴＡは「伝える」ことで支えました。本校広報部の強み

と言える「子どもたちの輪に入って取材する」。これにより笑顔や真剣に取り組む姿勢など日々成長する子どもたちの自然な様子を記録することができています。一連の活動を丁寧に取材し、編集した広報紙は、令和８年度県Ｐ連の広報紙コンクールにて高い評価をいただき、受賞に至りました。



自分たちの活動が客観的に評価され、モチベーションが向上することで、今後地域からの協力体制もさらに強固になるという、好循環がうまれるのではないかと期待しています。これは前述した「無理のない、やりがいを重視する組織運営」が間違っていなかったこと、学校や地域の協力により子どもたちがのびのびと活動出来ていることの証明でもあると考えます。

４　おわりに

１５０周年という節目は、私たちに「ＰＴＡはだれのためのものか」を再確認させてくれました。伝統という言葉は、時に組織の形骸化や私物化を生む危うさもあります。しかし、学校・保護者・地域の方々の「子どもらのためなら」という純粋な想いに触れるとき、私たちが立ち返るべき原点は、常に子どもたちの笑顔であると確信します。 子どもたちの笑顔のために、多方面からの意見を聞かせてもらえる体制が大切であると考えています。

１５１年目のバトンを受け継ぎ、組織の風通しを良くし、保護者が「気軽に意見を言える」環境を整えていくこと。また、「子どもらのためなら」と協力してくださる地域からの助けは惜しまず受けとめ、学校、地域への感謝を忘れず、「みんなで創るＰＴＡ」を目指します。１５０年の歴史を誇りに、しかし過去の慣習に縛られることなく、令和の時代にふさわしい「人と人がつながり、学びあふれる」組織を力強く進めてまいります。



第３分科会

柿安シティホール

小ホール



第３分科会

会 場　柿安シティホール　小ホール

発表テーマと発表PTA

◆三国の20年後を見据えた“未来づくり”
～保護者・生徒アンケートからわかること～
／福井県坂井市立三国中学校PTA

◆P（ポジティブ）T（楽しく）A（明るい･温かい）活動を通して、
子どもも大人も笑顔に！
～PTA活動を「続けたくなる」組織にするために、今必要なこと～
／三重県東員町立三和小学校PTA

助　言　者

●東員町教育委員会　学校教育課　主査兼指導主事　　武笠　　主

講　　演

◆みんなで子育て　～東員町が考える学校運営協議会の型～

講 演 講 師

●東員町教育委員会　学校教育課　特命監　　辻　　哲哉

三国の20年後を見据えた“未来づくり”
～ アンケートからわかること ～

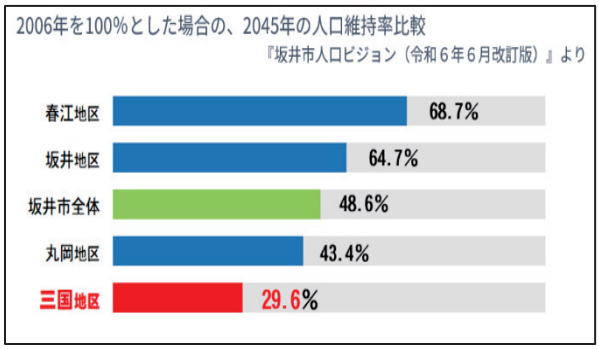
福井県坂井市立三国中学校
PTA会長　　石　谷　一　城

１　はじめに

(1) 地域紹介

坂井市は、福井県の北部に位置し、平成１８年に坂井郡の三国町・丸岡町・春江町・坂井町の４町が合併して誕生しました。市内には旧町域を学区とする５つの中学校が設置されています。私たちの住む三国地区（旧三国町）は、断崖絶壁の『東尋坊』や『越前がに』、そして300年続く『三国祭』で知られる、歴史と食の豊かな港町です。 祭りでは大人も子どもも一丸となって巨大な山車（やま）を曳き回す、そんな熱気あふれる地域です。 しかし、その三国地区に、今、ある「危機」が迫っています。

(2) 坂井市“人口ビジョン”より



坂井市が発表した人口ビジョンによると、私たちの三国地区は市内でも特に人口減少が著しいことが分かりました。2005年を100%とした場合、2045年の子供の数は『29.6%』。実に７割減という衝撃的な予測です。 これは他の地区と比べても突出して低い数字です。これを学校規模に置き換えてみます。 現在、三国中学校は１学年「5～6クラス」あります。 しかし、20年後の推計人口（約712人）から算出すると、１学年は約71人、わずか「2～3クラス」になってしまう見込みです。半分以下の規模になる。これが現実です。２０年後の三国中学校はどうなるのか？三国地区はどうなるのか？ この「20年後の現実」を前に、ＰＴＡとして何ができるか。 その第一歩として私たちは保護者と生徒への意識調査を実施し、分析することにしました。

２　ＰＴＡよりアンケートを実施

(1) アンケート概要

「20年後、人口が７割減る」というデータを前に、漠然とした不安を具体的な課題に変えるため、保護者と生徒、それぞれの「認識」と「本音」を調査しました。 実施は令和７年12月、全校生徒と保護者を対象に行いました。アンケート項目は以下の通りです。生徒・保護者それぞれに質問項目を作りました。

生徒用アンケート
- Q 三国地区の大幅な人口減少を知っているか。
- Q 人口減少が学校に及ぼす影響は。
- Q 人口減少が三国地区に及ぼす影響は。
- Q 将来どこで生活するか。
- Q 三国地区の魅力をどの程度感じるか。
- Q 三国地区の魅力をどこに感じるか。
- Q 子どもが三国地区を好きになる有効な取り組みは。

保護者用アンケート
Q 三国地区の大幅な人口減少を知っているか。
Q 人口減少が学校に及ぼす影響は。
Q 人口減少が三国地区に及ぼす影響は。
Q 子どもの将来の生活場所をどう考えるか。
Q 子どもの数が減少しないように学校としてできること。
Q 子どもの数が減少しないようにＰＴＡとしてできること。
Q 三国地区の魅力をどの程度感じるか。
Q 三国地区の魅力をどこに感じるか。
Q 子どもが三国地区を好きになる有効な取り組みは。

(2) アンケート結果

「人口減少を知っていますか？」という問いに対し、生徒・保護者とも「よく知っている」と回答したのは14%台にとどまりました。三国地区の人口減少については、生徒にも保護者にもまだ十分に知られていないことが分かります。アンケートから私たちが人口減少について心配する点は、全体的には生徒も保護者もほぼ同じ傾向でしたが、生徒の多くが「学校行事や地域行事の縮小」が高かったのに対し、保護者の心配はそれよりも「学校の統廃合・クラスの減少」という違いも見られました。また、保護者よりも生徒のほうが「将来、仕事や就職先が減る」ことを心配していることもわかりました。

(3) アンケートから見る三国の未来

特に注目したのは、定住意向です。「三国に魅力がある」と答えた生徒は９割にのぼります。 しかし、「将来住みたいか」と聞くと、その数字は２割まで激減します。 「好きだけど、ここには住めない」。このギャップの正体は一体何なのでしょうか。保護者も、子どもの将来の生活場所で三国地区と回答したのは２割程度でした。人口減少による地域の衰退を心配しながらも、子どもの意志を尊重したいという保護者の葛藤がうかがえました。自由記述には、より具体的な切実な声がありました。交通の便や店舗の少なさなど「三国で生活をすることの不便さ」に触れる声、「人口減少は避けられない」 という消極的な意見もありました。

(4) 三国を好きになるためには

その一方で、「三国を愛する人間は多い」「三国で頑張っている人を紹介すべき」「三国に関する授業を多くするといい」という前向きで熱い希望の言葉もありました。三国地区を好きになる取り組みとして有効と考えられることを聞くと「イベントへの参加・運営体験」、「地元食材を使った特産品メニュー開発」、「地域探訪プロジェクト」、「地域の人との交流事業」などが多くありました。

3 地域活動分析

(1) 三国中学校の取り組み

私たちはこの結果を踏まえ、三国中学校において三国地区に関連した活動がどうなのか調べることにしました。

改めて、三国中学校でどのような活動がなされているか調べたところ、地域に根差した活動が私たち保護者の認識以上に十分に行われていることがわかりました。

特に、総合の時間の中では、「ふるさと三国の魅力再発見」や「三国インフル

エンサーになろう」というテーマを設け、積極的に三国地区に関する活動をしていることを知りました。また、PTA 役員の企画として「三国花火翌日の親子清掃活動」や「三国の海女さんからの職業講和」を行った年もありました。

（2）小学校・高校の取り組み





さらに、三国中学校の先生方から、三国地区の他の学校にも照会をかけてもらったところ、学校ごとに、それぞれの地域に根差した活動を行っていることもわかりました。三国の中心部である北小学校や南小学校では三国祭をはじめとした伝統に関連した活動が行われていました。また、海に近い雄島小学校では、海産物を利用した活動なども行われていました。

県立の三国高校でも三国に関連した探究活動が行われています。



4　PTAができること

（1）結論　～アンケートより～

今回のアンケートなどから導き出された結論は３つです。１つ目は、無理に「引き留めない」こと。子どもの意志を尊重することが何よりも大切です。無理に引き留めることは、子どもの可能性をつぶすことになると考えます。２つ目は、「三国地区への愛着を高めていく」ための「体験」を作ることです。「三国でしかできない体験」こそが、将来の心のよりどころとなり、地域への愛着を高めていくことにつながります。そして３つ目は、そのために「学校へのメッセージを送ること」です。先生方の業務改善は我々もＰＴＡも協力して行わないといけません。一方で、三国地区への愛着を高める学校活動については、地域の中で様々な貢献・活躍をしている方と連絡調整をし、協力してもらうために、ＰＴＡが担う役割は、決して小さくありませ

ん。三国地区の将来に大きな影響を与える可能性もあるため、こういった活動を大切にしてほしいという思いをしっかり伝えていきたいと思います。

(2) PTA広報誌発行

三国地区の人口減少については、まだ十分に周知がされていません。各学校でどれだけ地域とつながった取り組みをしているかも十分に浸透していないと思います。また、今回のＰＴＡの取り組みを受け、今年度、三国中学校では「２０年後の三国を考えよう」を一つのテーマに総合の学習を展開するということになりました。

今回の取り組みでわかったこと、そして今年度の三国中学校の取り組みを、ＰＴＡ広報誌に掲載し、令和９年３月に全家庭に印刷をして届ける予定です。また近隣５校の小学校と三国高校にはデジタル版を配布する予定です。三国町全体で三国の未来について考える機会を作れたらと考えます。



【広報紙の表紙】

(3) 最後に　～自由記述から～

20 年後へのヒントは保護者の自由記述の中にもありました。子どもの頃の体験や地域への愛着が、地元に戻ろうという気持ちに、いつかつながることがあります。今後も、20 年後の三国のために、できることから取り組んでいきたいと思います。

20年後へのヒント　～保護者の自由記述の中から～

昔から三国の子は**地元が好きで外に出ても戻ってくる傾向が強い**ように感じ、これは祭りや伝統があり、地域愛を育てられているからだと思う。

三国でしかできないことを小学校や中学校で体験することは、いつまでも心に残ります。そういう体験は、三国に住み続けていると当たり前に感じますが、**一旦外に出るとそれは特別なことだったと気がつく**のです。…私は、幼少期の三国での生活が愛おしく思えたので、子供たちにもそのような経験をさせたくて、**三国に戻って来ました**。

育った場所、生きて来た場所が心地よければ、また**人はそこに戻ってくる**と思う。

Ｐ（ポジティブに）Ｔ（楽しく）Ａ（明るく・温かい）活動を通して、子どもも大人も笑顔に！
～ＰＴＡ活動を「続けたくなる」組織にするために、今必要なこと～

三重県員弁郡東員町立三和小学校ＰＴＡ
会長　　水　谷　佳　子

1　はじめに

(1) 地域の紹介

東員町は三重県北部に位置し、桑名市、いなべ市、四日市市に隣接しています。名古屋都市圏へのアクセスに優れた利便性を有しながら、豊かな田園風景が広がる自然環境に恵まれた町です。

また、「こども歌舞伎」「東員ミュージカル」「東員『日本の第九』」をはじめとする特色ある文化事業が地域に根付き、住民の手によって大切に継承されるなど、文化の薫り高いまちづくりが進められています。

さらに、「東員町16年一貫教育プラン」に代表される子育て・教育施策の充実にも積極的に取り組んでおり、胎児期から中学校卒業まで一貫した教育・子育て環境と、きめ細かな支援体制を整えています。

こうした取り組みは、子育て世代から高い評価を受け、多くの家族に選ばれる理由となっています。

その結果、東員町は大東建託㈱の「住み続けたい自治体ランキング（東海版）」1 位（2021～2024）、「街の幸福度ランキング（東海版）」2位（2021～2023）となるなど、住みやすさと暮らしの満足度の高さが広く認められています。

(2) 学校の紹介

三和小学校は、創立 137 年を迎える歴史と伝統ある学校です。校区の改編や学校の移転を経て現在に至り、本年度の児童数は、112 名と、町内6校の小学校の中で最も少ない人数となっています。

在校生の保護者や祖父母が卒業生であることも多く、校内には親戚関係の児童が在籍するなど、地域全体がお互いをよく知る温かなコミュニティが形成されていることが特徴です。

また、高学年で編成される鼓笛隊は本年度で第64代目を数え、本校の伝統として受け継がれています。運動会での演奏や隊形移動を取り入れた演技、近隣の大型商業施設でのミニコンサートは地域の皆様にも親しまれています。子どもたちは活動を通して伝統を受け継ぐ誇りを育み、その姿は下級生たちの憧れとなっています。

このように三和小学校は、地域との深い結びつきの中で、歴史と伝統を大切にしながら、一人ひとりの子どもを温かく育む学校として歩み続けています。

(3) PTA組織と活動

本校PTAは、本部役員5名（会長、副会長、



親代表、地域部長、研修部長）と、6年生保護者の地区委員、各学年の保護者学級委員を合わせた計15名が組織の中心となっています。

各役員は地域部または研修部のいずれかに所属し、地域部は登下校の安全・安心を確保するための取り組みを、研修部は基本的生活習慣の確立に向けた取り組みを中心に活動しています。

本部役員については、5年生保護者が副会長を務めた翌年度に会長へ昇任する仕組みとなっており、前年度の課題や取り組みを次年度へ円滑に引き継ぐ役割を担っています。

地域性にも恵まれており、PTA加入率は100%、PTA総会出席率は80%以上となっています。

2　子どもたちが関わる行事の縮小・見直し

(1) 児童数減少

本校の卒業生である保護者の話によれば、親世代の頃は現在よりも児童数が倍以上おり、授業参観等で小学校を訪れると、その変化の大きさに驚かされることが多いとのことです。

町全体としては子育て世代に人気のある地域である一方、本校区は市街化調整区域内に位

置しているため、新たに住宅を構える際の制約が多く、今後も児童数は減少傾向が続く見込みです。

また、兄弟姉妹で同時に在籍している家庭の割合が高いことから、児童数に比べて世帯数はさらに少ない状況にあり、この点も今後の学校運営を考えるうえでの重要な特徴となっています。

(2) 地域行事と学校行事の変遷

かつては各地区において「子供会」や寺社等の行事が行われ、子どもたちが心待ちにするイベントが数多く存在していました。しかし、時代の変化とともにそうした地域行事は見直され、「子供会」や「婦人会」などの団体が解散するケースや、地域の祭りから屋台が姿を消すケースも見られるようになりました。

本校においても、教職員の働き方改革、コロナ禍での活動制限に伴い、かつては授業参観に合わせて実施されていた親子行事（お楽しみ会）を廃止し、運動会は平日の午前開催に縮小、高学年のサマーキャンプも宿泊を伴わないデイキャンプへと見直されました。また、長年にわたり続いてきた三世代交流行事である「餅つき」についても、インフルエンザや胃腸風邪への懸念に加え、新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受け、実施が困難となり中止となりました。

その後も、感染症対策や酷暑による熱中症予防の観点から、学校行事全体の在り方が継続的に見直され、昨年度、ついに子どもたちが楽しみにしていたデイキャンプも実施しないということになりました。

3　地域・学校行事の縮小がもたらすこと

(1) 失われつつある地域・学校行事の価値

これまで子どもたちのために、大人たちが時間と労力をかけて大切に築いてきた地域行事や学校行事は、単なるイベントではなく、世代をつなぎ、地域の絆を育む重要な営みでした。

しかし、こうした行事の減少・消失により、子どもたちが楽しみにしていた体験の機会が失われつつあります。「自分が子どもの頃に経験した楽しさを我が子にも」という世代間の継承の機会も減少し、子どもたちの笑顔に触れる場面そのものが少なくなっている現状があります。

(2) 人間関係の希薄化と子どもへの影響

地域・学校行事の縮小がもたらす影響は子どもたちにとどまりません。行事を通じて育まれていた保護者同士、あるいは地域と学校とのつながりも希薄になり、地域・学校の関係性の弱体化を危惧します。かつてPTA活動の中で見られた、保護者と教職員が協力し合いながら子どもたちのために楽しく取り組む姿は、子どもにとっての良きモデルであり、そのような姿を目にすること自体が、子どもたちの安心感や信頼感、すなわち「心理的安全性」を育む重要な要素となっていたと思います。

さらに、こうした「子育て共同体」的な活動の減少は、子どもたちの郷土愛や学校への愛着を育む機会の減少にもつながりかねません。地域や学校が「自分たちの居場所である」という感覚が希薄になることは、長期的に見て大きな課題だと思います。

本当にこのままでよいのでしょうか。今一度、子どもたちの健やかな育ちと地域・学校、保護者・教職員のつながりの在り方について、立ち止まって考える必要があるのではないでしょうか。

(3) PTA活動再構築に向けた意識の高まり

新型コロナウイルス感染症という正体の見えない感染症から命を守るため、世界中で約二年間にわたり、誰もが行動制限と我慢を強いられる状況が続きました。

その後、5類感染症への移行により行動制限は解除され、学校行事や地域行事も見直しを経ながら、かつての形を踏まえつつアレンジされた形で徐々に再開されていきましたが、一斉に行事が中止となった当初は「このままでよいのか」という不安もありました。一方で準備や参加の負担から解放され、「楽」を感じていた面があったことも事実です。

本校のPTAにおいても、コロナ禍を経て大きな見直しが進み、負担軽減の観点から活動を大きく縮小していきました。その中で、一部の役員からは「一度はPTA役員をやってみたいと思い参加したものの活動実感が持てなかった」との声も聞かれ、PTAの意義や在り方そのものを改めて問い直す契機となりました。

こうした経験を通じて、単に負担を減らすことにとどまらず、子どもたちのために保護者と教職員が関わり合い、協力しながら活動することの大切さを再認識する機運が高まりました。

その結果、PTA活動を見直し、より実質的で

意義のある形へと再構築していこうとする思いが芽生え、昨年度の大きな方向転換へとつながっていきました。

4　新コンセプトのもとPTA活動再始動！

(1)　R7 年度PTA総会での発表

新年度となり初めて開催された本部役員会において、会長からは「昨年度は何もやった気がしなかった」という振り返りとともに、「今年度は役員会や委員会など、顔を合わせて話し合う機会を増やしたい」との提案が示され、出席者全員の賛同を得ました。

PTAに対しては、「負担が大きい」「大変そう」「義務感が強い」といったイメージから敬遠されがちですが、そうした中で、経験者から語られた「やるなら楽しくやろう」という言葉は、本部役員の意欲を大きく後押しするものとなりました。

その後のPTA総会で会長から「P(ポジティブに)T(楽しく)A(明るく・温かい)活動を！」というコンセプトが提案され、承認されました。また、この方針は後日学校だよりにも大きく掲載され、全 PTA 会員へ広く共有されることとなりました。




令和7年度 PTA 総会

(2) 工夫と実践

役員会・委員会・各部会で会って話し合う機会を確保するため、授業参観後や教育講演会後の引き続きの時間を使って集まる工夫をしました。わが子の姿を参観した直後や、子育てに有益な講話の直後に集まることは、「子どもたちのために」、との前向きで活発な議論へ展開しました。

特筆すべきは、東員町PTA連合会と東員町教育研究の会共催の子育て講演会「子どもの自己肯定感を引き上げる方法(講師:石田勝紀氏)」の中で教わった「成長の見える化」を図るシステム(子ども手帳)を三和小バージョンとして直ちに取り入れたことです。

研修部が中心となり、講演を直接聞いていない保護者にも分かりやすい形で整理し、子どもたちが義務感で「やらされている」日々の取り組みを、自主的に「やってみたい」と感じられるようにする視点を反映させました。

これはまさに、PTA活動を継続可能なものとするために必要な視点と同じです。「やらなければ」ではなく「やってみたい」活動へ。新しいコンセプトにこの視点を得て、組織としての士気が上がり始めました。

5　PTA行事「星を観る会」

(1) 主催行事の立ち上げへ

2(2)でも述べましたが、R6年度まで学校行事として実施されていた高学年デイキャンプ(かつてのサマーキャンプを見直したもの)は、酷暑への対応や児童数の減少等の理由により、実施が見送られることとなりました。

そうした中、「楽しみにしていた子どもたちのために、PTAとして何か思い出に残る行事を実現できないか」という前会長の強い思いを受け、本部役員が中心となって新たな取り組みを企画しました。

そして生まれたのが「星を観る会」です。子どもたちにとって心に残る体験となることを願い、PTAによる新たな活動として立ち上げられました。

(2) 主催者の思い−星を観る会、企画の歩み−

実施日は2学期終業式の日と定められ、本格的な企画会議が始まったのは秋頃でした。空気が澄み、天体観測に最適な時期に合わせ、星のソムリエ(星空案内人)をゲストティーチャーとして招聘することにも成功し、会のメイン企画が決定しました。

本企画では、非日常的な体験を子どもたちに提供すること、保護者同士のつながりを深めPTA活動への理解を促すこと、そして継続可能な運営モデルを構築することを目的として掲げ、実現に向けて検討を重ねました。


企画会議

企画会議では、役員自身の小学生時代の楽しい思い出を振り返りながら、「わが子にも同じよ

うな体験をさせてあげたい」という思いが多くの意見として出され、アイデアが活発に交わされました。その中から検討・精選を重ね、最終的に以下の7つのイベントで構成することとなりました。

①焼きいも　②大声コンテスト　③スリッパ飛ばし
④唄きうまい棒　⑤星を観る会　⑥校内肝試し
※サプライズとして
⑦保護者有志による合奏と合唱（手話を入れながら）
♪世界に一つだけの花♪

(3) 成功のポイント

ア　地域とのつながり

大声コンテストでは、東員町青少年育成町民会議から機材をお借りし、進行にもご協力いただきました。日頃より「あいさつ運動」や「ありがとうの花を咲かせよう運動」などを通じて、子どもたちの成長に深く関わっていただいている地域団体の協力を得られたことは、本行事を継続可能なものとするうえで大きな意義を持つものでした。

イ　保護者間のつながり

プログラム決定後、対象となる5・6年生への周知とともに、保護者スタッフを急募しました。その際に心がけたのは、参加のハードルをできる限り下げることでした。準備や打合せへの参加が難しい方や、途中参加のみ可能な方でも関われるよう配慮し、役員による個別対応や、状況の近い保護者同士の伝言など、丁寧な連絡体制を整えました。

こうした手間を惜しまない対応が、主催者の思いをリレーのようにつなぎ、全体の一体感を高める大きな推進力となりました。サプライズ企画として実施した保護者有志によるステージも、この流れの中で大きな成功を収め、2 部合唱や演奏、手話など多彩な内容で子どもたちを大いに楽しませました。

限られた準備期間にもかかわらず、保護者同士が柔軟に連携できた背景には、小規模校ならではの強みもあったと考えられます。保護者間


保護者サプライズ

のつながりを強めるという当初の目的が達成されたことは、主催者にとっても大きな喜びとなりました。

ウ　子どもも大人も笑顔

そして何より、関わった大人全員が笑顔で、子どもたちと同じように心から楽しんでいたことが最大の成果でした。子どものための活動であると同時に、大人自身も元気をもらえる取り組みとなり、まさに双方向に価値のある行事であったと確信しています。

6　まとめ（声を大にして言いたい！）

(1) 今後のPTA活動に必要なこと

「星を観る会」終了後には、子ども・保護者の双方から多くの感想が寄せられました。「子どもも大人も楽しめた」「都合がつけば次回はスタッフとして関わりたい」といった声は、今後の継続開催への大きな励みとなるものでした。

今回の活動を通して得られた最大の学びは、PTAは特別な人だけのものではないということです。関わることで笑顔が生まれ、感謝が循環し、PTAは「負担」ではなく「つながりの場」へと変わり得るという実感を得ました。

「P（ポジティブに）T（楽しく）A（明るく・温かい）活動」というコンセプトが、今後も子どもたちと保護者をつなぐ大切な指針として受け継がれていくことを願います。

(2) PTAという組織の本質


R7事務局

ＰＴＡとは、保護者と教職員が子どもたちのために、そして同時に自分たち自身のためにも、つながり合いながら活動できる場です。そこには「共感」「共汗」「共歓」があり、同じ目的に向かって力を合わせることの喜びがあります。

共に感じ（共感）、共に汗をかき（共汗）、共に喜び合う（共歓）ことのできる組織であることこそ、PTA の持つ本来の価値であり、その素晴らしさを改めて実感する機会となりました。

この経験を通して、PTAが単なる役割分担の組織ではなく、人と人とが温かくつながる「学びと成長の場」であることを、これからも大切に伝えていきたいと思います。

第４分科会

四日市市文化会館

第１ホール



第４分科会

会 場　四日市市文化会館　第１ホール

発表テーマと発表PTA

◆Ｈｉアプリで広がる・つながるPTA活動の輪
～「できるときに、できることを」を形にしたエントリー制の実践～

／名古屋市立中根小学校PTA

◆つながる絵本プロジェクトで、つながる校区、つながる地域

／三重県四日市市立南中学校PTA

助　言　者

●四日市市立中部中学校　校長　坂下　亮介
●四日市市教育委員会　教育指導課　副参事兼課長補佐　重内　庸司

講　　演

◆子どもに安心を届ける　～不登校を予防する言葉かけ～

講 演 講 師

●ちばＴラボ代表、元北海道公立中学校教諭　千葉　孝司

Ｈｉアプリで広がる・つながるＰＴＡ活動の輪
～「できるときに、できることを」を形にしたエントリー制の実践 ～

愛知県名古屋市立中根小学校ＰＴＡ
顧　問　　會　澤　啓　子

１　はじめに

私は、令和５年度にＰＴＡ本部役員となり、運営に携わって４年目を迎えました。この４年間、会長とともに「お願いするＰＴＡ」から「参加しやすいＰＴＡ」への運営改革に取り組んできました。

本部役員になるまでは、本部は「特別な人が入る場所」だと思っていました。当時は、委員を１年経験した人だけが本部役員になれる仕組みだったため、自分には縁のない役割だと感じていたのです。一方、多くの保護者は、「子ども一人につき委員一回」という仕組みの中で、それぞれの生活に合わせながら委員を引き受ける時期を考えていました。私自身も、多くの保護者と同じ立場でした。

令和５年度から、本部役員のなり手不足をきっかけに会則が改正され、委員経験がなくても本部役員になれることとなり、当時、読み聞かせボランティアとして学校に関わっていた私に本部役員のお声掛けをいただき、活動を始めました。

本部役員として活動を始めると、ＰＴＡパトロールや行事の準備、委員会の運営があり、想像以上に多くの業務を担っていることを知りました。特に毎年行われる委員選出は、本部役員、保護者にとって大きな負担となり、運営に追われる中で改革を考える時間さえ持てない状況でした。

そこで中根小ＰＴＡでは、委員会活動の見直しから段階的な運営改革を進め、その取組の一つとしてＨｉアプリを活用したエントリー制を導入しました。本稿ではＨｉアプリ導入に至るまでの運営改革の歩みと、エントリー制導入による実践と成果について報告します。

２　改革への土台づくり

「参加したくても参加しづらいＰＴＡを変えたい。」その思いだけで改革を進めることはできませんでした。まず必要だったのは、本部役員の負担を整理し、運営を見直すことでした。本部役員は、本部活動に加え、３つの委員会運営と委員管理を担っていました。特に毎年行われる委員選出は、多くの時間と労力を要し、本部役員にとって大きな負担となっていました。（図１）



図１

そこで、まず委員会活動を見直し、活動の廃止や統合など、できることから段階的に運営改革を進めました。（図２）



図２

改革を進める中、何度も教頭先生に相談しました。「ＰＴＡ活動に携わる方々が楽になる改革になっているか」「これまで委員を引き受けてくださった方はどう思うだろうか」と問い掛けられ、そのたびに立ち止まり、話し合いを重ねました。

その結果、改革には制度を変えることだけではなく、学校との信頼関係を築き、目的を保護者と共有しながら進めることが大切であると学びました。委員会活動を見直したことで、本部役員と保護者の負担は軽減されました。しかし、この時点では活動を整理した段階であり、ＰＴＡの仕組みそのものを変えるまでには至っていませんでした。

３　視察をきっかけに見えた新たな可能性

委員会活動を見直したことで一定の負担軽減は図ることができました。しかし、「このままで本当に良いのだろうか」という思いは残っていました。

本部の任期が残り半年となった頃、同期である会長から「他校の取組を見に行ってみよう。」と声を掛けられ、エントリー制を導入している学校を視察しました。視察先のＰＴＡの雰囲気はとても明るく、前向きな印象でした。エントリー制を導入してから、「保護者間の委員決めのストレスがなくなった」「今まで通りではなく、集まった人でできる活動を行えばよい」という話を伺い、保護者だけでなく、本部役員にとっても負担の少ない運営が実現できることを知りました。

そして、すぐに教頭先生に相談しました。しかし、中根小にはアプリの問題点がありました。保護者用連絡アプリ「きずなネット」はあるものの、エントリーに活用できるシステムがなく、新たな導入も費用面から難しい状況でした。

そんな中、会長から紹介されたのが、東京のＰＴＡ会員が開発した無料アプリ「Ｈｉアプリ」でした。募集や連絡機能を備えたこのアプリなら、工夫次第でエントリー制を実現できると考え、学校と何度も協議を重ねました。その結果、「導入するのであれば、最後まで責任を持って進められる人が中心となること」という方向性となり、会長とともに３年目も本部に残り、改革を進めていくことを決意し、ここからエントリー制導入へ新たな挑戦が始まりました。

４　エントリー制導入に向けた準備

令和７年度からエントリー制を導入するにあたり、最初に大切にしたことは、保護者の理解を得ることでした。教頭先生の協力をいただき、「きずなネット」を活用して保護者アンケートを実施した結果、８ 割以上の世帯

がエントリー制への移行を希望していることが分かりました。その結果を踏まえ、令和７年度は段階的にエントリー制を導入することとしました。（図２）

令和６年度内に保護者へ周知をするため、委員会の変更や活動内容をまとめたパンフレットを全世帯へ配布し、新１年生保護者説明会でも説明を行いました。（図３）



図３

そこで伝えたかったのは、「参加できる時だけ参加してください」ということだけではありません。「活動に参加できなくても、ＰＴＡへ加入し、エントリー制を支えていただくことも大切な協力です。」と、それぞれの生活に合わせて、無理のない形でＰＴＡとつながってほしいという思いを伝えました。

さらに、アプリ登録を簡単にしてもらえるように本校ＰＴＡ独自のＨｉアプリマニュアルを作成し、全世帯へ配布しました。（図４）



図４

こうして、保護者とＰＴＡが同じ方向を向いた状態で、令和７年度のエントリー制がスタートできる運びとなりました。

５　エントリー制導入後の実践と成果

新しいエントリー制を取り入れ令和７年度、Ｈｉアプリへの登録者数は順調に進み、４月末には１００人を超えることができました。

最初の募集となった足型マーク補修活動はすぐに定員を満たすこととなり、その後も子どもたちを支える大切な学校行事の活動も無事にエントリー制で実施することができました。

エントリー制活動を継続していくためには、募集を行うだけでなく、活動の様子を伝え続けることも大切です。そこで、全世帯に「きずなネット」より配信される「広報なかね」を活用し、ＰＴＡ活動の紹介や募集案内を継続して発信しました。

また、中根小オリジナルキャラクターによる四コマ漫画やイラストを掲載し、まだＨｉアプリに登録していない保護者へ「まず読んでもらう」広報を心掛けました。（図５）

さらにＨｉアプリのポイント機能を活用し、登録者数を増やすため期間限定登録ポイントを設け、活動に協力してくださる保護者に感謝の気持ちをポイント付与という形で伝え、これまで委員会活動に充てていた予算をポイントに振り替えることで、新たな予算を増やすことなく継続できる仕組みを整えていきました。

一年間の運営を学校とともに振り返った結果、３つの委員会のうちの分団代表委員会は置かなくても、運営できることを確認し、令和８年度から廃止が決まりました。（図２）

これにより、中根小ＰＴＡは残りの２つの委員会を統合した運営を行う本部のみとなり、「お願いするＰＴＡ」から改革を遂げることができました。

６　実践を振り返って

令和８年度を迎え、Ｈｉアプリ登録者数は２９０人となりました。エントリー制は定着しつつありますが、私はこれで完成したとは考えていません。毎年、新一年生が入学し、卒業生が巣立っていきます。だからこそ、本部役員は保護者が参加しやすい環境を考え続け、活動を発信し続けることが大切だと考えています。エントリー制は目的ではありません。保護者がそれぞれの生活を大切にしながら、無理なく学校とつながり続けるための仕組みの一つです。それぞれの学校には、それぞれの学校に合ったＰＴＡの形があります。大切なのは、「もっと良くできないか」という視点をもち、時代や保護者の状況に合わせて見直し続けることだと感じています。

そして、本部役員の負担が軽減されたことも、大きな成果でした。委員選出に追われるのではなく、保護者や子どもたちのために「こんなことをやってみたい」という思いを形にする明るい時間が生まれました。

それは、**「やらなくてはいけないこと」に追われるのではなく、「やりたいこと」を実現できるＰＴＡへ、**一歩近づけたことでもあります。

本部役員を支えることは、保護者を支えること。そして、その積み重ねが子どもたちを支えることにつながるのだと、この実践を通して感じました。

私たちも最初から答えをもっていたわけではありません。一歩ずつ活動を見直し、学校と話し合い、他校から学び、本部役員や保護者と試行錯誤を重ねながら、ここまで歩んできました。ＰＴＡ改革に必要なのは、特別な知識や経験ではありません。

「もっと良くしたい」という思いをもつこと。

その思いを受け止め、共に考え、決断してくれる人がいること。

そして、その思いを形にする仲間がいること。

これが、私自身４年間の実践でたどりついた答えです。

この実践が、同じようにＰＴＡ活動に取り組む皆さまにとって、それぞれの学校に合ったＰＴＡの在り方を考え、一歩踏み出すきっかけとなれば幸いです。



図５

つながる絵本プロジェクトで、つながる校区、つながる地域

三重県四日市市立南中学校ＰＴＡ
顧　問　　堀　　加　奈

１　はじめに

(1) 南中学校区の現状

四日市市の南部に位置する南中学校は、生徒数 600 名を超える、市内では最大規模の学校です。南中校区には 3 つの小学校があり、様々な家庭環境や地域性を有しています。南中 PTA は比較的積極的に活動に参画する保護者が多く、また、登校見守りボランティアや図書ボランティア(以下、図書ボラ)をはじめ、地域の方が熱心に学校に関わり支えてくださる土壌があります。こうした地域性の中で、わたしは、校区の一つである泊山小学校ＰＴＡ本部にて令和 3 年から 2 年間、現在は南中学校 PTA 本部役員として、活動を続けています。

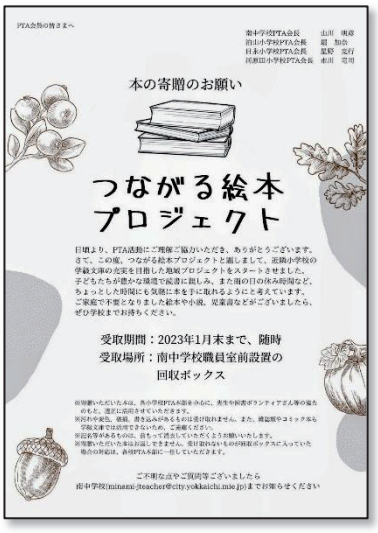
(2) 取り組みのきっかけ

ＰＴＡ会長という立場で、令和 3 年に小学校のコミュニティスクール運営協議会(以下、ＣＳ)に初めて参加するようになりました。当時のＣＳ会議は、地域の方々が学校を参観して、学校の課題や困り感を共有することが中心でした。そんな中でわたしが気になったのは、各教室前に雑然と置かれている古い学級文庫でした。「この本はいつからあるのだろう」「誰が管理しているのだろう」「本の入れ替えはあるのだろうか」そんな素朴な疑問が次々に浮かびました。そして何より「子どもたちが休み時間に自然と本を手に取る姿をみたい」という思いが芽生え、ＣＳの委員へ投げかけたことがこの「プロジェクト」の始まりでした。当初は自校の学級文庫の充実を目的とした本の寄贈を募る小さな提案でしたが、ここから学校・家庭・地域を巻き込む取り組みへと発展していくこととなりました。

２「つながる絵本プロジェクト」の実践

(1) 中学校区の連携体制

まず、小学校だけで寄贈を募った場合、高学年向けの本が十分に集まらないのではないかという課題がありました。学校長とも対話を重ねる中で、「中学校でも寄贈を募ることはできないだろうか」という案が出ました。一方で、「中学校で集まった本を一つの小学校だけで受け取るのは適切ではないのではないか」という新たな課題も生まれました。 そこで、南中学校区三つの小学校と南中学校、それぞれのＰＴＡへ声をかけ、中学校区全体で取り組むプロジェクトとして実施することを提案しました。学校を通じてＰＴＡ会長へ連絡を依頼したり、学校長とともに中学校を訪問したりと、何とか一学期中にスタートさせたい一心で準備を進めました。 6 月末、4 校の PTA 会長が初めてＳＮＳ上でつながり、様々な協議を重ね、その結果、7 月の個人懇談会に合わせて保護者へチラシを配布が実現。「つながる絵本プロジェクト」をスタートすることができました。4 校ＰＴＡの連名で全世帯に配布できたことは、一つの目的に向かって校区の PTA がつながり、協力体制を築くことができたことを実感する出来事となりました。


PTA会長の皆さまへ

本の寄贈のお願い

つながる絵本
プロジェクト

受取期間：2023年1月末まで、随時
受取場所：南中学校職員室前設置の
回収ボックス

ご不明な点やご質問等ございましたら
南中学校(minami-jteacher@city-yokkaichi.ed.jp)までお知らせください

(2) プロジェクトの経過

プロジェクトのネーミングから、寄贈本の扱いについての注意事項、回収ＢＯＸの設置場所、問い合わせ先など、たくさん協議を重ねてチラシが完成したわけですが、2 学期以降も懇談期間や運動会に合わせて経過報告や追加のチラシを配布するなど、工夫しました。また、4 校の名前の入った寄贈印を作成し、集まった本に押印する準備も整えました。日に日に集まる絵本や児童書を前に、この輪がどこまで広がるのだろうかとわくわくしました。ＣＳ会議でも経過を都度報告してきましたが、地域の方々が一緒になって喜んでくれたり、小中学生向きではない本の寄贈先の提案をしてもらったりと、お世話になりました。



(3) 図書ボランティアとの協働

そうやって続々と、我々の予想を遥かに上回る規模で本が集まったわけですが、ここで学級文庫に適した形に本を整える必要があることを知りました。図書室の本と混ざらないための工夫も必要でした。図書ボラさんの助けがなければ集めた大量の本をどうしていいかわからなかったと思います。寄贈印を押し、仕分けや修繕、必要なものにはカバーをかけてもらいました。集まった本はＰＴＡで保管しつつ、学級文庫で活用できるところまで手をかけてもらうのは、本の扱いに長けている各校の図書ボラさんに協力をお願いすることとなりました。普段は図書室で活動している図書ボラさんが、ＰＴＡ室で一緒になって仕分け作業をする姿は、団体の垣根を超えて協働する楽しさや、つながりのあたたかさを感じる機会となりました。

(4) 家庭・学校・地域とのつながり

4 校のＰＴＡが主催し、保護者や先生方、そして一部地域からも集まったたくさんの本は、各校の図書ボラさんの手と知恵を借りながら仕分けし、なんとか年度内に学級文庫で活用できる形となりました。いよいよ本を共有スペースに並べるとなった時には、学校の先生方もお手伝いをいただきました。先生方の中には、ご自身が読み終えたばかりの真新しい本を寄贈いただいたり、先生自身が読まれていた本をご実家からたくさん譲っていただいたりと、一緒になって取り組んでくださる方が本当にたくさんおられ、これこそが PTA 活動の本質ではないだろうかと改めて感じました。 また、集まった本の中で小中学生向きではない本は、ＣＳを介して地域の方からご助言をいただき、幼児向けの絵本は校区内の保育園へ、高校生や大人向けのものは人権プラザや地区市民センターの図書室、老人ホームなどにも寄贈させていただく運びとなりました。

(5) 実践から得られた成果と課題



年度末までに集まった寄贈本は、絵本や児童書を中心に 1,462 冊にのぼりました。寄贈本を学級文庫に並べる際に、次のようなメモ書きを印刷して添えることにしました。 「ここにある本は、保護者や先生、地域の方から寄贈（プレゼント）された本です。ぜひ皆さんで大切に読んでください。たくさんの本との素敵な出会いがあります

ように。」 本を手にした子どもたちが、その本の向こう側に保護者や先生、地域の方々の思いを感じてくれたらーそんな願いを込めて、このメッセージを添えました。学級文庫の充実という当初の目的を超え、「多くの人が子どもたちを見守り、応援している」という思いを届けることができたことが、この取組みの最大の成果であったと感じています。 多くの方の協力により、学級文庫の充実だけにとどまらず、学校・家庭・地域をつなぐ取り組みとして大きな成果を得ることができた一方で、毎年役員が入れ替わるＰＴＡが取り組みの主体となって活動を継続し、地域に定着させていくためには課題も見えてきました。各校のＰＴＡが毎年同じ体制や熱量で取り組めるとは限りません。4 校のＰＴＡ会長の間でも、「家庭読書の推進にもつながるため継続すべき」という意見がある一方で、「継続を前提とすると、引き継いだ役員の負担やプレッシャーにつながるのではないか」という意見もありました。また、短い期間で繰り返し寄贈を募っても十分な冊数が集まりにくいことも予想されました。「毎年実施すること」を目的とするのではなく、無理なく続けられる仕組みや役割分担を考えていく必要があると感じました。

３　新たなスタート（令和７年度）

(1) 新プロジェクトの概要

令和 4 年の取組みから 3 年、わたしは中学校 PTA で本部役員をしながら、小学校での図書ボラにも籍を置いていました。校区の子どもたちの読書推進のために、何か出来ることはないかと模索する一方で、つながる絵本プロジェクトをリスタートさせることについては慎重でした。前回の実践を通して、継続には仕組みづくりが不可欠なため、安易に再開すべきではないと感じていたのです。

4 校のＰＴＡが足並みを揃えて取り組めるか、図書ボラさんが負担感なく関わってくださるか、色々な点で不安がありました。そんな時、声をかけてくれたのは前回のプロジェクトで一緒に活動した日永小学校の会長や、地域活動でもお世話になっている図書ボラさんでした。「そろそろまた、やってみない？」という言葉に背中を押され、再び学校やＣＳ、各校のＰＴＡ会長、図書ボラの皆さんに連絡を取り、プロジェクトの概要を説明し、協力を仰ぎました。長い目で見て「続けられる仕組み」を意識した、新たなプロジェクトとしての再スタートです。

(2) 校区の連携の広がり

今回のプロジェクトでは、ＰＴＡと中学校図書ボラの連名でチラシを配布し、回収ＢＯＸの管理や寄贈冊数の集計などは各校ＰＴＡが担当しました。集まった本は一度すべて中学校へ集約し、図書ボラの皆さんに仕分けや修繕、カバーかけなどをお願いしました。前回は、まずＰＴＡが本を集め、その後になって図書ボラの皆さんへ協力をお願いする形でしたが、今回はプロジェクト開始当初からＰＴＡと図書ボラが全体を見通した上で役割分担して活動を進めることができました。前回の経験があったからこそ、自然と役割を分担しながら協力できる関係が築かれていたことを実感しました。

(3) 図書ボランティアの新たな可能性

改めて感じたことは、校区の図書ボラさんの本に対する知見の深さです。学校によって、読み聞かせ活動を専門にされているところもありますが、対象年齢ごとに「これは中学生向き」「これは低学年向き」と、テキパキと仕分け作業をされ、本の修繕やカバーかけなども丁寧にやってくださいました。学校や保護者とのやり取りは PTA を主体に、本の扱いに関しては図書ボラさんに、それぞれの分野を生かした役割分担が

できたことで、より無理なく活動を進めることができたと感じています。 また、ＰＴＡは単年で人が変わっていきますが、図書ボラは長く続けている方が多く、ノウハウが引き継がれやすい面もあります。

(4) 保護者・地域の反応

２度目の取り組みで集まった本は、864 冊になりました。職員室前に設置された回収ＢＯＸに徐々に本が増えていく様子を、学校を訪れるたびに楽しみにしてくださった保護者さんや地域の方も多くおられました。わたしが本を回収に行った際にも、たくさんの先生方にお声をかけていただき、いつも嬉しい気持ちになりました。学校や地域、保護者が、この取組みを通して３年ぶりに再びつながり直した、そんな手応えを感じることができました。

4　おわりに

(1) 二度の実践から見えてきた課題

二度の実践を通して、子どもたちの読書環境のために、多くの保護者や先生方、地域の方々が快く協力してくださることが分かりました。一方で、継続的な活動として定着させるためには、毎年役員が交代するＰＴＡだけに負担が集中しない仕組みづくりが不可欠であることも見えてきました。また、本の仕分けや修繕には図書ボラの専門性が欠かせず、学校・ＰＴＡ・図書ボラ・ＣＳがそれぞれの役割を理解しながら協力することの重要性を改めて実感しました。「人の熱意」に支えられる活動は大きな力になりますが、それだけでは長く続けることは難しく、誰か一人に負担が偏らない体制づくりが今後の課題であると考えています。

(2) 持続可能な取り組みにするために

この取り組みは、学校・家庭・地域が子どもたちを思い、それぞれの立場でできることを持ち寄ることで、多くの人がつながるきっかけとなるものでした。毎年実施することにこだわるのではなく、その時々のＰＴＡや学校、地域の状況に合わせながら、無理なく続けられる形を今後も模索していきたいと考えています。 また、図書ボラや CS など地域に根付く活動とも連携しながら、「子どもたちのために何かしたい」という思いを次の世代へつないでいける仕組みづくりを目指していきたいと思います。持続可能な取り組みとは、毎年同じ形で続けることではなく、「そろそろまたやらない？」と自然に声を掛け合える人とのつながりを育んでいくことなのではないかと感じています。

(3) 絵本の先にある「つながり」を目指して

「つながる絵本プロジェクト」という名前だけを聞くと、多くの人は「絵本が次の子どもへ受け継がれるプロジェクト」を思い浮かべるかもしれません。しかし、私たちが目指した「つながる」とは、それだけではありません。子どもたちの周りには、保護者や先生、地域の方々など、多くの大人が応援していることを伝えたい。その思いを絵本という形に乗せて届けることが、この取り組みの本当の目的になりました。学校・家庭・地域がゆるやかにつながり続けることは、地域全体で子どもたちを見守り、育てていくことにつながります。そして、そのようなつながりは、学校へ毎日通う子どもだけでなく、さまざまな事情を抱える子どもたちにとっても、「地域には自分を気にかけてくれる人がいる」と感じられる安心感につながるのではないかと思います。一冊の絵本から始まった小さな取り組みが、人と人とのつながりを育み、誰もが居心地のよさを感じられる地域づくりへと広がっていくことを願っています。

第５分科会

イスのサンケイホール鈴鹿



第５分科会

会 場　イスのサンケイホール鈴鹿

発表テーマと発表PTA

◆PTAによる地域活動　～ほだか会～　／岐阜県高山市立東山中学校PTA

◆150年の歴史を未来へつなぐ学校再編へのあゆみ
～地域・保護者・学校が一緒に考え進んだ道～
／三重県鈴鹿市立天栄小学校PTA

助　言　者

●鈴鹿市立栄小学校　校長　松本　博

講　演

◆生きてるだけで百点満点！　～しあわせを伝えよう～

講 演 講 師

●助産師　林　みち子

ＰＴＡによる地域活動
～ ほだか会 ～

岐阜県高山市立東山中学校ＰＴＡ
会　長　　小　川　善　行

１　はじめに

(1) 高山市及び学区

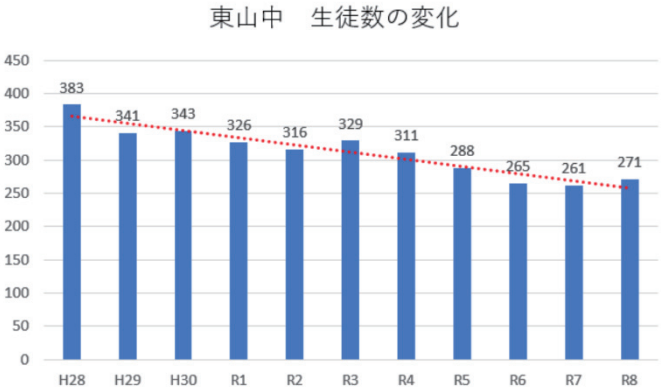
高山市は、岐阜県の北部に位置しており、日本一面積が広い市です。そのうち約９割が森林で占めており、東には北アルプスが連なり、乗鞍岳や新穂高ロープウェイなど、大自然を肌で感じることができます。人口は約８万人、３万７千世帯あり、中心市街には古い町並みと呼ばれる区域があります。そこには、国の伝統的建造物群保存地区に選定されており、江戸時代の面影を残す町並みが見られます。1600年半ばから続く高山祭は、日本三大美祭の１つに挙げられ、春は12台、秋は11台の屋台が行列となり鼓・鉦を打ち鳴らしながら巡行します。



校区は高山市の中心市街にあり、秋の八幡祭が行われる櫻山八幡宮を含めた場所です。大小39の町内から生徒は登校します。

(2) 高山市立東山中学校について

東山中学校は、今年、創立50周年を迎えます。昭和52年４月に現在の地に開校しました。それまであった大八中学校と岩滝中学校を統合し、その他２つの中学校の一部の生徒もあわせて、現在は４つの小学校から本校へ入学します。全校生徒は271名ですが、10年前と比べると100名程減っており、少子化の波を受けています。



開校時にできた校章は、３つのひらがなの「ひ」、東山中学校の「ひ」が集まっています。１つ目の「ひ」は生徒、２つ目は家族、３つ目は先生を意味します。生徒と家族と先生方が力を合わせ素晴らしい学校を創りあげる願いが込められています。



２　ＰＴＡの現状と今日的な課題を受けて

(1) ＰＴＡの現状

東山中学校ＰＴＡは、今年度の会員数が276名で加入率は100％です。また、組織及び役員・委員数は下の表の通りです。

本部役員	会長１、副会長２、書記１ 会計１、顧問１
常任委員	教養委員８、厚生環境委員８ 広報委員８、地区委員38 ほだか委員２
学級委員	３学年３学級９

今年度はスローガンを「紡ごう明るい笑顔と未来～50 年後もみんなの笑顔が続く

学校へ〜」としています。「紡ぐ」という言葉には、人の言葉や物語、歴史、思いなどを丁寧に繋ぎ合わせて作り上げるという意味があります。学校と家庭、地域社会が繋がる環境づくりや活動を行いたいと考えています。また、創立 50 周年の節目をよい機会に、関わる方々の想いを汲みながら生徒たちの明るい未来に繋がるような活動を行いたいと考えています。

(2) 今日的な課題を受けて

近年の社会構造の変化に伴い、高山市においても、少子高齢化による地域コミュニティの希薄化、保護者の多忙化等が進み、持続可能なＰＴＡの在り方こそ喫緊の課題と捉えています。そこで、ＰＴＡの組織や活動を見直しつつも、学校・ＰＴＡと地域が繋がり子どもを育てる仕組みの在り方を追求し続けてきました。

東山中学校ＰＴＡには、社会全体で繋がる仕組みの工夫の１つとして、ＰＴＡ役員ＯＢ会による協力体制があります。今回はこの取り組みを紹介させていただきます。

３　地域連携の具体

(1) 完全週 5 日制の実施に伴って

ほ＝ほかっといたら
だ＝だしかんさ（ダメだよ）
か＝かまって（かかわって）やらんと

ほだか会は、上記の願いを込め頭文字をとって名付けられました。きっかけは、平成 14 年度に始まった完全週 5 日制です。ゆとり教育を通して生きる力を育むために、ＰＴＡとして親子が共有できる時間と場の提供ができないかと考えたことがきっかけです。ＰＴＡ組織や取り組みを検討しながら、平成 22 年度からＰＴＡの１つの委員会としてほだか委員会を組織し、ほだか会が始まりました。親子・仲間と共に学ぶ、地域に愛着と誇りを持つ、様々な体験を通して自己の視野を広げるといった活動を行いました。

(2) ＰＴＡ役員ＯＢ会の協力

ほだか委員会の組織化と並行して、ほだか会などの行事を充実したものにするには、会員以外のサポート役が必要だろうと、ＰＴＡ役員ＯＢや地域の方々に声をかけ「ほだかサポートの会」という支援団体を組織してくださいました。この組織によって、地域の方との繋がりが密になり活動は充実したものとなりました。現在、ほだかサポートの会員は約 150 名で構成されています。

(3) ほだか会の変遷と繋がり

ほだか会の体験活動は、年度ごとに担当委員が活動を決め、実施してきました。



体験活動として、市内や近郊を観光した年もあります。飛騨市神岡町のレールマウンテンバイク体験や上高地での自然散策などもしてきました。年によっては、川魚つかみや、そば打ち、ピザづくりなどの体験を重視した活動も実施してきました。





サポートの会の方々には、様々な職種の方々がみえ、自分たちにできることを協力していただいています。事前準備では、物品の仕入れ先や施設との連絡調整などを、当日ではチェックポイントでの見届けなどをご協力いただきました。このように様々な活動を実施してきました。

ここ数年は、市内ウォークラリーとバーベキューが持続可能な取り組みだと考え実施しています。



ウォークラリーは古い町並みを含めた市街地にチェックポイントを設け、クイズを解きながら回ります。ほだか委員が生徒に市内や校区のどこを見せたいかのかを検討して準備を進めます。サポートの会の方々には、仕入れ先を教えていただいたり、ウォークラリーの裏側でバーベキューの設置や火起こし、ウォークラリーのスライドショー編集をしていただいたりしています。





活動後の生徒の感想の一部を紹介します。

> ほだか会でウォークラリーとＢＢＱをしました。ウォークラリーはチームで協力することができて楽しかったです。ＢＢＱではみんなと話をしながら楽しめました。この会はＰＴＡや先生、ほだかサポートの会の人のおかげなので、感謝の気持ちをもってすごしたいです。

このように、会のねらいである、共に学んだり自己の視野を広げたりできたことについてはもちろん、会をサポートしてくださった方への感謝を述べる生徒が多くいました。このことは、地域の方との関わりから生徒と地域の方との心の繋がりが読み取れ、好事例になったと捉えています。

(4) 餅つきの会と繋がり

ほだか会以外にも、毎年、冬休みに入る前日に伝統的な文化を体験させたいと、餅つきの会を開催しています。体育館に８つの臼を置いて学級ごとに餅をつきます。

事前準備として、ほだか委員が材料などを調達したり、ＰＴＡ会員をクラス割りしたりして準備を進めますが、サポートの会の方の中には、杵のメンテナンスができる方や、大根を提供してくださる方、餅を返すのが得手な方、鏡餅を作るのが得手な方などがおり、ほだか委員やＰＴＡ会員も教えていただきながら会に協力できる体制が整っています。親子で文化を学び体験できる機会になっています。



集団になじめず別室で学習している生徒も餅つきをやってみたいと言い、時間をずらして挑戦しました。サポートの会の方が杵に手を添えてこつを教えてくださりながら、何度も餅をつくことができました。地域の人とふれあい、体験ができたことはその生徒の一生の財産になったと思います。



４　地域への繋がり

（1）学校行事での繋がり

東山中学校では、「地域と共にある学校」を学校のミッションとして掲げて教育活動を進めています。地域では、防災やつながりづくりを進めていますが、参加人数の減少や高齢化の課題もあり、中学生との協働的な取り組みをしたいと願ってみえます。

ＰＴＡとしても、ほだかサポートの会などで培ってきた地域とのつながりをさらに強固なものにしたいと願っています。そのため、地域と協働する学校行事「郷土の未来を語る会」を始めました。この行事は、12 月頃に各町内会やまちづくり協議会で生徒と大人が輪になって、持続可能な郷土を作るための話し合いを行うものです。





令和 7 年度は、生徒が町内会やまちづくり協議会の行事に事前に参加し、郷土の未来を語る会当日は、次年度に協働してみたいことを話し合いました。事前に参加した行事は、川掃除や夏祭りのブース運営、防災訓練、通学路点検など様々でしたが、生徒は 12 月までにそれぞれの地域行事に参加しました。



郷土の未来を語る会当日は、ＰＴＡとして、地区委員や本部役員などが働きかけ、できる限り参加するようにしました。会を終えた参加者からは、「生徒が地域行事に積極的に参加すると、まちづくりの活性化に繋がる」というご意見を多くいただきました。さらに、今年度の春に行われた学校運営協議会においても、生徒と協働した活動こそ充実させたいというご意見をいただきました。

まちづくり協議会主催の夏祭りに参加した生徒代表のレポートには、次年度夏祭りを行うときに改善するとよいことなどの意見はもちろんのこと、「地域の人と関わり、協力してより良い地域・暮らしを目指すことが地域とともに歩むこと」であるとまとめられていました。ＰＴＡ活動を活用して、学校と地域が繋がることは、持続可能なＰＴＡの在り方にとても有効です。さらに、生徒が地域から学ぶことは、次世代の社会の造り手を育てていくことに繋がると感じています。

５　おわりに

東山中学校ＰＴＡが大切にしてきた地域との繋がりは、生徒にどんな人に育ってほしいかを話し合う中で今の体制ができてきました。地域コミュニティの希薄化が社会問題になっていますが、ＰＴＡ役員ＯＢや地域の方々が子どもを気にかけてくださるこの地域ならば、今後も問題解決のチャンスがあると捉えています。そして、地域との繋がりを大切にした活動を仕組むことで、生徒に感謝の気持ちが育ったり、次世代の社会を創ろうという気持ちが育ったりすることが分かり、繋がって学ぶことは重要なことだと捉えています。

今後も、持続可能なＰＴＡの在り方を求めていきたいと考えています。今回紹介させていただいた通り、学校とＰＴＡと地域が繋がり、三者のウエルビーイングを保ちながら生徒を育てていきたいと考えています。

『150年の歴史を未来へつなぐ学校再編へのあゆみ』
～ 地域・保護者・学校が一緒に考え進んだ道 ～

三重県鈴鹿市立天栄小学校ＰＴＡ
（旧鈴鹿市立合川小学校令和5・6・7年度ＰＴＡ会長）
宮﨑　奈緒子

1　はじめに

(1) 地域の紹介

旧合川小学校は鈴鹿市の南西部に位置し、自然豊かな山に囲まれ、北側には中ノ川が流れています。多くの庭園を造り日本の禅文化に大きな影響を与えたとされる偉人『夢窓国師』の誕生地でもあり、学校周辺には夢窓国師の産湯の井戸や誕生霊地碑も残されています。また、鈴鹿市はスポーツも盛んでサッカー選手の三浦知良さんが所属していたサッカーチーム『アトレチコ鈴鹿』や、日本ラグビーの最高峰で活躍している『ホンダヒート』の元本拠地でもあり、選手と触れ合うことができる出前授業も盛んでした。



(2) 学校の紹介

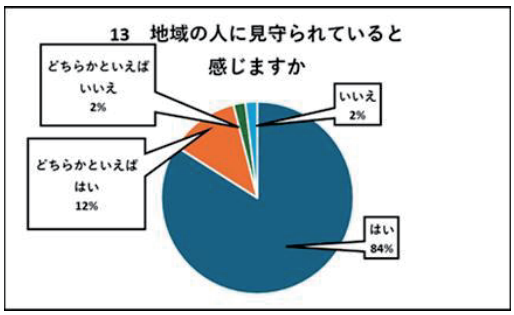
明治８年 11 月 19 日に三宅村、徳居村、長法寺村連合の三宅学校として設立。昭和 22 年合川村立合川小学校となり、昭和 29 年 8 月鈴鹿市との合併により鈴鹿市立合川小学校と改称されました。過去には 400 人を超える児童が在籍していましたが、少子化の進行に伴い、複式学級が見込まれる状況となりました。そのような状況を受け、平成 27 年度から 4 年間、文部科学大臣より教育課程特例校の指定を受け、4 年生以上に英語教育を取り入れました。また、平成 27 年度から 3 年間三重県教育委員会から「小学校における英語コミュニケーション力向上事業」の指定を受け、レゴブロックやフォニックス教材を取り入れた英語の授業が行われました。平成 27 年 4 月には鈴鹿市初の『小規模特認校』の指定を受け、校区外からも通学ができるようになると、一時期は児童数の 1/4 が校区外から通う程、制度の利用者も増えつつありました。しかし、平成 31 年度より全ての公立小学校で英語教育が始まると特認校制度の利用者はしだいに減少していきました。令和５年に学校再編による近隣３校の再編が決定。令和６年度には鈴鹿市初の複式学級の発生により、小規模校から過小規模校となりました。閉校の年となった令和７年度の児童生徒数は 59 人（うち特認校制度利用者は 11 人）となり、創立 150 年目の節目の年に学校再編の為、閉校となりました。



2　本校の取り組み

(1) 地域と共に進める教育

合川小学校では、まち探検や米作り体験活動などは地域の方々に支えられた活動となっていました。『夢窓国師』の学習では講師を招き、合川の歴史を深く学び英語のパンフレットにまとめ、修学旅行先で外国人の方に配るという体験学習も行っていました。また、登下校の見守り、学習ボランティア、環境ボランティアなど多くの保護者や地域の方々から協力を受け、除草作業などのＰＴＡ行事においても自治会の力添えがあり充実した活動となっていました。さらに、地域では様々な行事が催され、『ボッチャ体験会』や『いきいきスポーツデー』などには子どもからお年寄りまで大勢が参加し、楽しんでいました。このような取り組みのおかげで学校アンケートの『地域の人に見守られていると感じますか』の問いに対して 96％の児童が肯定的な回答をしています。

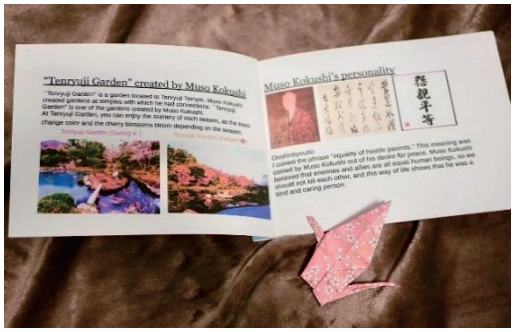




（5 年生が中心となって行う米作り活動）



（夢想国師について学ぶ）



（英語のパンフレットを作成）



（修学旅行にてパンフレット配付）



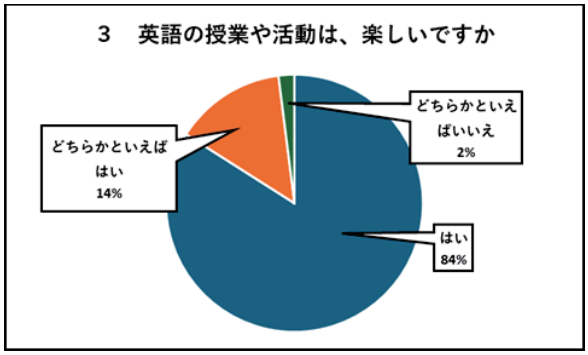
（地域行事：いきいきスポーツデー）

(2) 少人数によるきめ細やかな教育

合川小学校では少人数の良さを生かし、児童同士が密に関わる縦割り班活動など、様々な経験や体験を大切にしながら子ども同士の絆づくりを大切にしてきました。全教職員が児童の情報共有に努め、学年を超えた関わりがもてたのは合川小学校ならではです。

(3) 特色のある英語教育

平成 27 年度から 4 年間、国の教育課程特例校の指定を受け、4 年生で週 2 コマ、5，6 年生で週 3 コマ授業を行っていました。また、平成 27 年度から 3 年間は県からの指定を受けて 3 年生でも隔週 1 コマ英語学習を取り入れていました。平成 31 年度の学習指導要領の改訂により全ての公立小学校で外国語活動が実施されるようになって以降も、学校裁量の時間に英語に親しむことを目的としたイングリッシュタイムを設けたり全学年でモーニングイングリッシュを実施したり、英語活動発表をするなどして楽しく英語に親しむことができる環境を整えてきました。その結果、児童アンケートでも『英語の授業は楽しいですか』の問いに対して 98%の児童が肯定的な回答をしています。



３　ＰＴＡ活動

(1) パッと楽しく集まろう！ＰＴＡ

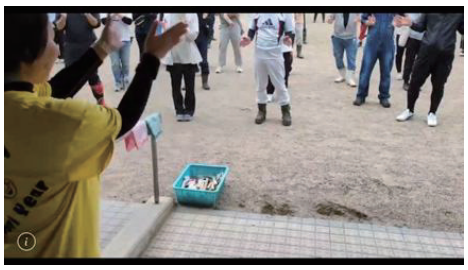
旧合川小ＰＴＡは、本部役員４名（会長、副会長、書記、会計各１名）と、地区委員８名を選出。本部役員の会長は『広報委員長』、副会長は『家庭教育学級長』、会計は『生活部長』を兼任し、計 12 名で構成。ＰＴＡの主な活動は、登校の見守り・除草作業・広報紙発行・家庭教育学級の開催・運動会の共同主催などです。

令和５年度からは合言葉として『Ｐ（ぱっと）Ｔ（楽しく）Ａ（集まろう）ＰＴＡ』を行事ごとに使ってきました。そして同時に始めたのが一丁締め。この言葉と行動には笑顔を生み、やる気を高め団結力が生まれる効果がありました。夏の暑い日の除草作業は体力気力ともに厳しい活動になりますが、合言葉で場も和み最後お礼と労いの意味を込めた一丁締めをすることによって次の活動への活力につながると保護者・地域の方に好評でした。

令和 6 年度からは学校再編による各部会（総務部会・ＰＴＡ部会・通学安全部会・代表者会）の委員となり、教育委員会との連携を図りました。会長は、その他に年間６回開催する鈴鹿型コミュニティスクール学校運営協議会の副委員長として、教職員代表者および自治会等の代表者と連携し、より良い学校運営の実現に向けて活動を行いました。また、学校長と共に地域の４つの団体（社会福祉協議会、青少年健全育成町民会議、公民館運営委員会、公民館体育委員会）に在籍し、地域活動にも積極的に参加をしていました。

(2) 地域に愛されるＰＴＡ

自然豊かな学校の環境を整える為には除草作業が欠かせません。合川小学校では年３回の除草作業を行います。年々減り続ける世帯数、保護者だけでは刈りきれない所を地域の方にご協力を頂いていました。学校・保護者・地域と連携し、主体的に参加する事が当たり前となっている校風はこれまでの良好な連携の歴史が伺える感動的な取り組みです。『こころは一つに子どもたちのため』最後の除草作業の際には地域の方から「もう一丁締めも出来なくなるんだね、寂しいな」とお声かけ頂くほど愛していただきました。最後の運動会では役員が仮装し、校庭にいる全ての方を対象に一つの大きな輪を作る競技を行いました。まずは児童・先生方でグループを作り、ルールが分かってきた頃に子ども達に地域、保護者の方を呼びに行ってもらうスタイルで進めた結果、たくさんの方にスムーズに参加していただくことができました。学校・保護者・地域をつなぐ架け橋となり、その輪を活かし、合川地区伝統の【夢想音頭】へとつなぎ、みなさんに楽しんで頂きました。



（除草作業後の一丁締め）



（ＰＴＡ競技）



（運動会にて夢窓音頭）

４　学校再編

(1) 学校再編までの道

鈴鹿市が目指す適正規模の考え方は、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、切磋琢磨するために一定規模の集団が確保される状態であり、その規模は、小学校で 12 学級から 24 学級まで、中学校では９学級から 24 学級までとされています。学校の規模が 5 学級以下の過少規模校または 31 学級以上の過大規模校となる場合には直ちに保護者・地域も交えて検討され、将来的に過少規模が見込まれる学校については統廃合の適否も考慮し、過少規模校が見込まれる年度の 5 年前を目途に保護者や地域に説明をするとされています。（※天栄中学校区における学校再編計画書より抜粋）

この手順に基づき、令和 2 年に合川・天名・郡山小学校区に「あり方検討委員会」が立ち上がり、8 月に「第一回　合川小学校の今後のあり方検討会議」が行われ、令和３年

1 月までに計 7 回実施。そのほか小学校の保護者に向けた意見交換会やこれから合川小学校に通う未就学児の保護者向けの意見交換会も行われ、この年に合川は学校再編に賛成しますという意思表示をします。

令和 4 年 4 月には地域からの要望で「天名小学校・合川小学校の今後のあり方検討合同会議」が行われ、その後、保護者に向けた学校運営協議会での意見交換会、校区外から合川小学校に通う保護者に向けた勉強会や各自治会での意見交換会なども合わせて 8 回行われています。しかし、参加者からは「十分に説明されていない」といった声が上がり再編への理解は少なく、反対意見の方が多く上がっていたように感じました。2 月に合川小ＰＴＡより在校生の保護者に向けた「合川小学校のあり方」に関するアンケートを実施、その結果を教育委員会へ提出し受理されました。翌月の年度末には「あり方検討委員会」が解散。令和 5 年度 9 月には「天栄中学校区における学校再編計画（素案）」に係る説明会が行われ、各地域から激しい反論が飛び交う説明会となりました。

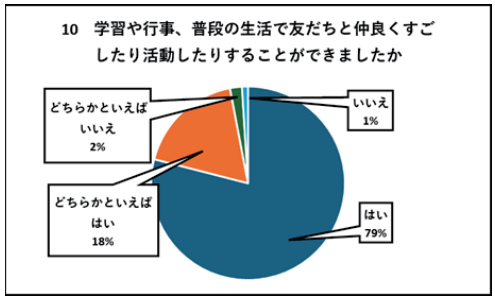
(2) ＰＴＡの立ち位置

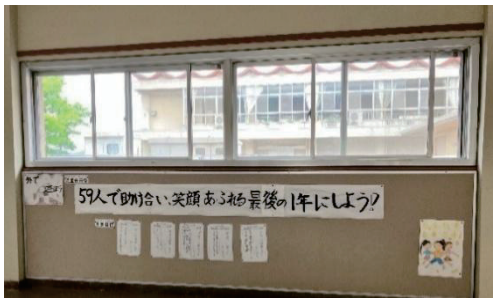
学校再編に向けて動き出した教育委員会と地域の地元への愛が溢れて生じる反対意見。その間に挟まれる形となってしまった PTA。令和 5 年に学校再編の話が具体的に動き出したとき、私たち PTA は初めて「当事者」として向き合うことになりました。行政の示す適正規模の方針と地域や保護者が抱く学校への想い。その間に立ちどう伝えどうつなぐのかがＰＴＡの役割だと感じていました。しかし、しだいに良くない噂話も聞こえてくるようになり、その矛先がＰＴＡに飛び火、厳しい口調で責め立てられる事もあり、精神状態を保つ事が難しい状況にまで追い詰められました。

そして、何度も臨時役員会を開き、「子どもたちの為に必要なことは何か」「地域との連携はどうか」などを話し合いました。同じ境遇にある天名小学校・郡山小学校の会長さんとも情報共有を行い、鈴鹿市ＰＴＡ連合会や教育委員会にも相談しました。再編に関する説明会が開かれていない事によって情報発信源でもない PTA が矢面に立っている状況などを涙ながらに訴えた事もあります。

ＰＴＡは意見をまとめる立場ではなく、様々な立場の人が意見を出す場を守る立場だと考えました。すぐに答えを出すことよりも、話し合いを続けることを選んだことが結果として理解と信頼につながったと感じています。

学校再編の動きが本格化し、再編の準備として各学年での 3 校交流会や 3 校合同社会見学を実施し、子ども同士の交流を深め、心のサポートにつなげてもらえたことは保護者としてもとてもありがたい事でした。その後令和 7 年度の児童会のスローガンに挙げられたのが『59 人で助け合い、笑顔あふれる最後の１年にしよう！』でした。その言葉通り、クラス・縦割り班活動・運動会では笑顔が満開、子どもたちがお互いに支え合う姿がよく目立ち、合川小学校での生活を存分に楽しんでいるように感じました。児童アンケートでも友だちと仲良くすごせたかの問いに97%の児童が肯定的な回答をしています。





（令和 7 年度児童会スローガン）

５　まとめ

『こころは一つに子どもたちのため』大人が笑えば子も笑う、大人が楽しめば子も楽しむ。つながりを大切にすれば絆も深まる。小さな学校だからできた密なコミュニケーション。本実践から得た学びは学校再編という大きなテーマであっても、対話の積み重ねが人と人との信頼をつなぐということです。PTA は調整役ではなく、「つなぎ役」として関わることで地域・学校・行政のそれぞれの声を未来へ届けることができると思います。

今年度からスタートした天栄小学校でも３校それぞれの経験とそこから胸に刻んだ様々な思いを大切にしながら、積極的に話し合う場やコミュニケーションを交わす場をもち、学校と連携することで子ども達のより良い環境づくりに繋げていけるといいなと思います。

第６分科会

四日市市文化会館

第２ホール



第６分科会

会 場　四日市市文化会館　第２ホール

発表テーマと発表PTA

◆次代につなぐ福光東部小育友会
～学校統合を控え、より一層地域での顔の見える関係づくりを目指して～
／富山県南砺市立福光東部小学校育友会

◆持続可能なPTA活動の在り方を模索して
～「全部会廃止」から始まる、令和の時代に即した
新たなパートナーシップの構築～
／三重県朝日町立朝日中学校PTA

助　言　者

●朝日町教育委員会教育課　指導担当課長兼指導主事　　藤田　貴大

講　　演

◆小規模化する学校　～教育の質は確保できるのか～

講 演 講 師

●三重大学　特命教授（地域連携担当）、 前三重県教育委員会教育長
福永　和伸

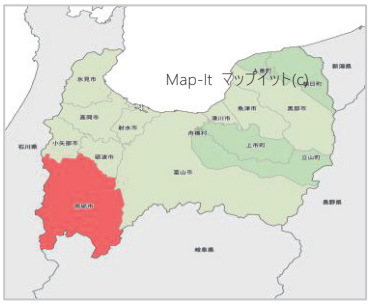
次代につなぐ福光東部小育友会
～ 学校統合を控え より一層地域での顔の見える関係づくりを目指して ～

富山県南砺市立福光東部小学校育友会
会　長　　梅　原　通　子

１　はじめに

(1) 地域および校区の紹介

南砺市は平成 16 年 11 月に４町４村が合併した自然に恵まれた地域で、人口は約４万５千人である。



校区は、小矢部川東岸に広がる、吉江、北山田、山田の３地区で構成されている。春は小矢部川河川公園の桜、夏は水田を回りながら太鼓を打ち鳴らし、竹で稲に付いた虫を払って五穀豊穣を願う「ねつおくり」が開催される。秋には良質な米が実り、全国的に知られる山田地区の特産品「富山干柿」は最盛期を迎える。冬は雪遊びやスキーなど、四季折々の自然と文化に親しむことができる。

(2) 学校紹介

本校は、昭和 57 年４月に旧福光町の吉江、北山田、山田の各小学校が統合し、福光町立福光東部小学校として創立した。平成 16 年の町村合併により、現在の校名となり、令和４年には創立 40 周年を迎えた。令和８年４月１日現在、１０学級 197 人が在籍している。


【校舎風景】

「やってみよう～ひろげよう　つなげようみがこう～」を本年度の重点目標に、子どもたちは様々な活動に積極的に取り組んでいる。

２　ＰＴＡ組織

本校の育友会は、執行部（会長１名、副会長３名、事務局長１名、会計１名、書記１名）、顧問２名（うち１名は学校長）、会計監査委員２名、各専門委員会（保健生活、交通安全、広報）、学年委員会、そして吉江、北山田、山田の各地区役員及び一般会員で構成されている。今年度は『あせらずくらべず見守ろう　一人ひとりの歩みを大切に』をスローガンに掲げ、子どもの教育的・生活的環境の向上を目指し、校区の特長を生かした様々な活動を展開している。

［保健生活委員会］
- 親子清掃美化活動
- アウトメディアチャレンジ、生活リズムチェック、親子歯磨きチェック

［交通安全委員会］
- 交通安全啓発看板の設置
- 街頭指導、自転車教室の協力

［広報委員会］
- 広報紙「東雲」年２回発行

［学年委員会］
- レクリエーションや体験型学習などの学年活動

［総務委員会］
- 早朝美化活動、通学路点検
- 子ども１１０番の家の登録、継続依頼

［役員会］
- 全ての役員により構成された総会に次ぐ意思決定機関

委員会活動以外にも、学校や地域と連携しながら様々な活動を行っている。運動会のテント設営や休日早朝清掃など、子どもたちの学習環境を支える活動をしている。

夏休みには地区育友会が中心となり、毎朝ラジオ体操を行う。子どもたちは決まった場所に集まり、元気いっぱいに体を動かしている。時には地域の皆さんも一緒に参加してくださり、自然な「おはよう！」の挨拶や交流が生まれている。

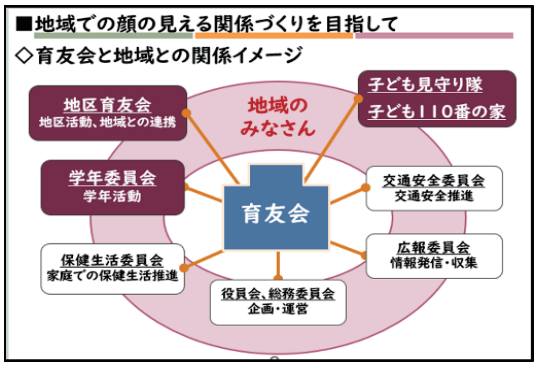
また、子どもたちの自転車点検も実施している。育友会が作成した点検表をもとに故障箇所がないか確認し、安全に乗れる状態かを点検している。問題のない自転車には点検済みシールを貼り、安全意識を高めるようにしている。

ラジオ体操最終日に行うクリーン作戦では、周辺の掃除やごみ拾いを行い、地域をきれいにする活動にも取り組んでいる。

３月の「親子で通学路を歩こう」では、新一年生と在校児童、そして保護者たちが一緒に通学路を歩き、子ども目線と親目線で危険箇所の認識の違いを確認するとともに「子ども１１０番の家」の場所を確かめながら、安全への意識を高めている。

これらの活動は、地域、育友会、子どもたちがお互いの「顔の見える関係」を築きながら、地域の絆を深める素敵な機会になっている。

３　顔の見える関係づくりを目指して



【育友会と地域との関係図】

「顔の見える関係づくり」を実現するため、育友会では「子ども１１０番の家」、「子ども見守り隊」、「学年委員会」、「地区育友会」の「四つの柱」を中心に活動を進めている。

(1) 子ども１１０番の家



校区には、子どもたちが登下校中などに危ない事や困ったときの駆け込み場所として「子ども１１０番の家」があり、現在会社や店舗、一般家庭、合わせて 44 箇所の皆さんに協力をいただいており、下校時にトイレをお借りしたり、水分をいただいたりすることもある。「子ども１１０番の家」には対応マニュアルをお渡しし、緊急時の適切な対応をお願いしている。また、目印となるステッカーを玄関先などに提示していただいている。

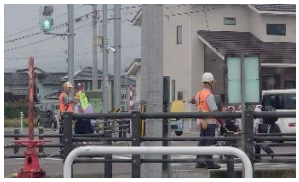
「子ども１１０番の家」の登録や継続のお願いは育友会が担っており、地域全体で子どもたちの安全を守る大切な取り組みとなっている。

子どもたちからは、日頃の感謝を込めて協力先へ感謝状をお贈りしている。

(2) 子ども見守り隊

「子ども見守り隊」は平成 17 年 9 月に結成され、現在 76 人の地域の方々が子どもたちの登下校を交代で見守ってくださっている。通学路に立ち、交通安全を支えるだけでなく「おはよう！」「いってらっしゃい！」の、温かい声かけは、子どもたちの安心につながっている。

春に行われる「見守り隊対面式」では、子どもたちが感謝の気持ちを伝え、歌を贈っている。この交流は、隊員の皆さんにとっても楽しみの一つとなっている。地域の方との顔の見えるつながりを持つことができるこの温かい見守りは、子どもたちの安全と笑顔を支える大きな力になっている。



(3) 学年委員会

学年活動には、地域の方を講師として招き、親子で参加する。１学年はエアロビクス教室、２学年はスポーツ教室、４学年は夏に星の観察、５学年はおはぎ作りに取り組む。

３学年の交通安全教室は、警察の方から自転車の交通ルールを学び、体育館内に再現した道路で走行を体験する。交通安全委員会も会場設営や走行補助に協力する。本校では、この教室を受けてから一人で自転車に乗って出かけてよいルールになっている。６学年は、戦渦を避けて旧福光町で約６年８か月の間、創作活動を続けた世界的版画家の棟方志功さんへの敬意を込めて、版画を使って行燈を制作する。完成した行燈は、毎年夏に開かれる地区行事「がんばる吉江いきいき祭り」に合わせてJR福光駅前に展示され、優秀な作品は吉江地域づくり協議会から表彰されている。

(4) 地区の育友会の活動

本校区には３地区の育友会があり、それぞれが地域の特色を活かした活動を行っている。

ア 吉江地区育友会

a 吉江ふれあい広場・食堂



子どもたちの居場所づくりを目的に毎月第２土曜日に開催される「吉江ふれあい広場」の運営に参加している。子どもから大人まで、モルックや段ボールを使った造形遊びを楽しんでいる。続いて開催される「ふれあい食堂」では、「食」を楽しむことができる。学校以外の場所で、日頃顔を合わせることが少ない地域の皆さんとの交流を深めている。

イ 北山田地区育友会

a 納涼祭の子どもコーナー



夏休み期間中に開催される地区納涼祭では、ボールすくいやくじ引きゲームの千本釣りなどが楽しめる「子どもコーナー」を運営し、園児から小学生までの子どもたちやその保護者との交流の場を提供している。

b 文化祭の居場所づくり



地区文化祭では、小学生の絵画や立体造形などの作品展示のほか、高齢者・子ども居場所づくりコーナーで、ゲーム体験の補助をしている。併設する飲食コーナーから温かく見守る地域の人々からは「〇〇さんとこの△△ちゃんけ？大きくなったね」と自然と会話が生まれ、地域の顔の見えるつながりが増える場にもなっている。

ウ 山田地区育友会

a クリーン作戦



保育園や中学校の各ＰＴＡ組織と合同でクリーン作戦を実施している。園児から保護者までが一堂に会し、清掃に汗を流している。中学生が年下の子をリードし、幅広い世代が協力して地域環境を整える姿は地区の絆の象徴である。地域の方からの「いつもありがとう」という温かな声かけもあり、活動を通じて「顔の見える関係」を築くとともに、郷土愛や感謝の心を育む貴重な交流の場となっている。

b サマーフェス・文化祭り



夏のサマーフェスや秋の文化祭りでは、物販スタッフ等として参加している。会場の山田地区交流センターには赤ちゃんから高齢者までが大勢集まり、飲食やカラオケ、芸能発表、作品展示を楽しんでいる。会場のあちこちで「大きくなったね！」「頑張っとるね」と、家族のような会話が弾む、大切な時間となっている。

エ 三地区合同サツマイモ掘り

校区の三つの地域づくり協議会が合同で農作業体験を開催している。三地区の園児から小学生、その保護者たちが北山田地区の畑に集い、春に苗を植え、秋には大きく実ったサツマイモを収穫する。共同作業を通じて地区を越えた「顔の見える関係」と、互いを助け合う温かな絆が育まれている。



4　成果と今後の課題

(1) 活動の成果

育友会はこれまで、学校・家庭・地域が同じ方向を向き、子どもたちの健やかな成長を真ん中に据えた「顔の見える関係づくり」に全力を注いできた。「子ども見守り隊」による温かな声かけや、地域行事への積極的な参画、そして保護者同士が手を取り合い支え合ってできた絆の輪は、一つひとつの地道な積み重ねにより、地域全体の安心感と強固なつながりを育んできたと確信している。子どもたちが地域の方々に親しみを感じ、見守られている実感を持てる環境を築くことができたのは何よりの成果である。

(2) 今後の課題

令和10年度には、小学校の統合という大きな節目を迎える。慣れ親しんだ環境が変わることへの不安の声もあるものの、それ以上に、新しい仲間との出会いによってより豊かな地域コミュニティを再構築できる大きな可能性が広がっている。

統合後は約560名の児童が学ぶ学校となり、ＰＴＡ活動に参加する保護者も大幅に増える見込みである。現在、統合に向けた協議会が発足し、統合する小学校に通う予定の園児の保護者や小学校の保護者、さらに同じタイミングで統合する中学校の保護者も参加し、話合いが進められている。それぞれの学校が培ってきた特色ある取組や良さを生かし、子どもたちにとってより良い学習環境をどのように整え、支えていくかについての協議が重ねられている。これまで別々の場所で子どもたちを支えてきた他校区の保護者や地域の皆さんと、互いの良さを尊重しながら、新しい信頼関係を丁寧に育てていくことが、これからの私たちに課せられた大切な課題と役割であると考える。

(3) 今後の展望

統合後も、子どもたちが新しい環境でのびのびと挑戦し続けられるよう、学校・家庭・地域がこれまで以上に厚く協力し合う体制を整えていきたい。私たち福光東部小学校育友会は、これまでの歩みで得た経験と絆を土台に「地域のみんなで子どもを育てる」という志をさらに広げ、次代へとつなぐ温かい地域づくりを進めていく。子どもたちの笑顔が、新しい学校や地域でも絶えることのないよう、未来を見据えた活動を続けていきたいと考える。

持続可能なＰＴＡ活動の在り方を模索して
～「全部会廃止」から始まる、令和の時代に即した新たなパートナーシップの構築～

三重県朝日町立朝日中学校ＰＴＡ
会長　笠　原　由加利・元会長　福　永　絵　美

1　はじめに

（1）本校の概要と急激な生徒数の増加

本校は、三重県で最も面積の小さい自治体である朝日町に位置する唯一の中学校です。平成 2 年に川越町との組合立から分離独立し、創立 37 年目を迎えます。

本校の歩みを語る上で外せないのが、近年の大規模な宅地造成による急激な生徒数の増加です。以前は全学年 2 クラス程度で推移するこじんまりとした学校でしたが、ピーク時には全学年 5 クラスにまで拡大しました。令和 8 年度は減少期に入りつつも全校生徒 382 名（14 学級）を擁しています。

特筆すべきは、「あさひ園（保幼一体）・朝日小学校・朝日中学校」という一園一小一中の構成です。多くの子どもたちとその保護者が十数年間にわたり同じ人間関係の中で育つため、学校・保護者・地域が「育ちのリレー」を意識した密接な連携体制を築いてきました。

（2）地域特性と保護者の多様化・潜在的な結びつき

急激な人口流入は、学校規模だけでなく保護者の構成にも大きな変化をもたらしました。新興住宅地の増加に伴い、都市圏へ通勤する若い核家族層や共働き世帯が一般化し、保護者の価値観やライフスタイル、ＰＴＡ活動に対する考え方も多様化していきました。

その一方で、一園一小一中という環境ゆえに、就学前の段階から保護者同士が顔を合わせる機会が自然に確保されており、もともと保護者間の結びつきが非常に強い地域でもありました。そのため、ＰＴＡ活動を通じてあえて保護者同士を義務的に結び付けずとも、日常的に顔見知りの関係性が成立しており、互いの悩みや疑問を相談し合える土壌がありました。結果として、子育ての悩みを一人で抱え込んで孤立する保護者は比較的少ないという、本町ならではのポジティブな土台が存在していたのです。

（3）子どもの発達段階におけるＰＴＡ活動の「引き算」

もう一つの重要な視点が、中学生という子どもの「発達段階」です。小学校時代とは異なり、中学生になると子どもが親にべったりとくっついていく機会は自然と減少します。保護者側にも、一歩引いて子どもを「見守る」というスタンスが芽生えてくる時期です。

小学校の段階では保護者参画のもとで行われていた活動も、生徒の自立とともに、保護者の手から離れていく傾向にありました。学校教育の充実に伴い、ＰＴＡ活動がこれまでの「形」を維持し続ける必要性そのものが薄れ始めていたのです。

（4）旧来の役員選出システムが抱えていた限界

しかし、組織の運営面では深刻な課題が浮き彫りになっていました。平成 31 年以前、ＰＴＡ役員は長年「地区ごとの輪番制」によって選出されていました。大規模な宅地造成によって地区ごとの世帯数に

著しい格差が生まれ、特定の地区に過度な負担がかかるなど、輪番制は完全に制度疲労を起こしていました。

そこで本校ＰＴＡは、この歪みを解消すべく、輪番制を廃止し「立候補、もしくはくじ引きによる選出」へと改めました。現在は、次年度 3 年生の保護者から会長を、次年度 2 年生の保護者から副会長を選出する選考ルールへと見直しを行い、選出プロセスの公平性と透明性を確保しています。

２　改革の決断とプロセス

(1) 既存部会の現状分析と形式的な「委員会」の実態

長年続いていた本校の専門部会は、学年ごとの各クラスから 1 名ずつ選出される形で構成されていました。しかしその実態は、活動内容が乏しいにもかかわらず「枠組み」だけが残り、形にこだわるあまりに学級委員を選出しなければならないという、本末転倒な状態に陥っていました。

そのため、「ＰＴＡ役員だから、しなければならない」という義務感だけで活動が行われ、重要な報告や議題もないまま、集まったものの数分で終了してしまう定例委員会すら存在していました。年間スケジュールにあらかじめ組み込まれているため、中身がなくても形式的に開催せざるを得ず、多忙な保護者の時間を奪う大きな要因となっていたのです。

ア 保健体育部（1 年生・各クラス 1 名）

現状・課題：従来担当していた奉仕作業は生徒と教員で十分対応可能であり、体育祭のＰＴＡ競技も廃止されたため、定例会が形式化していました。

改革の判断：廃止（今後は必要な場合のみ都度対応）。



（Ｒ６第１回花いっぱい運動の様子）

イ 文化研修部（2 年生・各クラス 1 名）

現状・課題：学校ホームページのリニューアルに伴い、教員によるリアルタイムな情報発信が格段に充実したため、紙の広報誌を発行する意義や必要性が低下していました。

改革の判断：廃止（ホームページによる情報発信へ集約）。



（最後となった 77 号ＰＴＡ通信）



（朝日中学校 HP）

ウ 家庭教育部（3 年生・各クラス 1 名）

現状・課題：スクール給食の導入により、これまで実施していたお弁当講習会の意

義が消失しました。また、動員型の講演会も出席者の減少により運営が限界に達していました。
改革の判断：廃止（今後は任意参加の形や、オンラインの活用へと切り替え）。

エ 学級委員（各クラス）
現状・課題：懇談会の出席者がほぼ皆無の状態が続いており、形だけの集まり（形式的な組織）となっていました。
改革の判断：廃止。

(2) 5年間の継続性とコロナ禍が生んだ「確信」

このドラスティックな全部会廃止を成し遂げられた背景には、当時のＰＴＡ会長による長期的なリーダーシップがありました。この会長は平成31年に副会長を務めた後、令和2年から令和6年まで5年間にわたり会長職に従事し、結果的に6年もの長きにわたって役員としてＰＴＡに携わることとなりました。

一般的にＰＴＡ会長が単年度で交代する仕組みでは、課題を認識しても改革の実行前に退任となってしまうケースが後を絶ちません。しかし、本校では同一の会長が長期間継続して活動の成果と課題を注視できたため、課題克服のための十分な準備期間を確保することができました。

さらに、その在任期間の多くがコロナ禍による活動自粛期間と重なったことも、大きな転換点となりました。全ての活動が強制的にストップしたことで、「本当に必要な活動」と「なくても影響のない活動」を冷静に見極めることができ、「部会を全て廃止し、委員会のためにわざわざ学校へ行くという形式的な維持を心配しなくても、保護者は興味や関心の高い学校教育活動には自発的に参加してくれる」という確固たる実績と確信を得ることができたのです。

3 組織の再編と「つながり」を残す決断

(1) 本部だけを残す組織設計と「三重郡ＰＴＡ」への所属

部会全廃に伴い、ＰＴＡ組織は従前から存在していた「本部役員のみ」が残る非常にシンプルな形へと移行しました。なお、この改革によって本部役員の業務負担が増減したわけではなく、本部の本来の役割に集中できる環境が整った形になります。

世帯の多様化や負担軽減の文脈から「ＰＴＡ脱退」を選択する保護者の動きが全国的に見られる中、朝日中学校ＰＴＡとしては「校内の形は最小限にするが、周辺とのつながりは強固に残す」という決断を下しました。

本校は、朝日町・川越町・菰野町の3町で構成される「三重郡ＰＴＡ連絡協議会」に属しています。町内に一つしかない中学校だからこそ、近隣の学校と横の連携を図り、情報交換を絶やさないことが重要です。孤立を避け、郡全体のネットワークに所属し続けることで、子どもたちに近隣校と同等の豊かなＰＴＡ活動の機会を保証すべきであると考えたのです。

(2) 「学校にお任せ」ではない、町視点での発信

校内の活動を極限までシンプルにスリム化しましたが、これは決して「学校への丸投げ（お任せ）」を意味するものではありません。

朝日中学校ＰＴＡは、朝日町から依頼される各種会議（青少年育成、地域活動・地域行事、学校給食に関する委員会など）には、町の唯一の中学校ＰＴＡとして責任を持って出席しています。朝日中学校という狭い枠組みにとらわれず、「町全体」

という俯瞰した視点から、地域のつながりを大切にしつつ、保護者の声を直接行政や地域へ届ける機会を確実に担保しています。

４　改革後の成果と生徒への「後方支援」

(1) 生み出された「余白」の家庭への還元と会費の減額

全部会を廃止したことで生み出された保護者の「時間」や「エネルギー」について、本校ＰＴＡでは、それを別の新たな活動（サポーター制など）で埋めることは現時点では考えていません。この「余白」の時間は、それぞれの家庭での教育の充実や、我が子にそそぐ愛情の時間にあてる形で、各家庭にそのまま還元していきたいと考えています。これこそが、現代の保護者にとって最も持続可能で本質的なＰＴＡの在り方だと考えるからです。

さらに、この改革は保護者の時間的負担だけでなく、経済的負担の軽減にも直結した。全部会を廃止したことで、各部会の事業費や事務にかかる諸費用など、ＰＴＡ活動に係る費用が大幅に削減されたのである。本校ＰＴＡでは、この削減分をそのまま保護者へ還元すべく、徴収するＰＴＡ会費の減額に踏み切りました。

活動のスリム化が、結果として「家庭の時間的・金銭的な負担軽減」という目に見える成果を生み出し、保護者からの高い納得感と支持を得る大きな要因となっています。

(2) 物的・財政的な「後方支援」へのシフト

組織をスリム化した現在も、生徒の学校生活に欠かせない必要なものの購入などへの支援は継続しています。

町（行政）を通じての物的な支援は、手続き上どうしても非常に長い時間を要してしまいます。しかし、ＰＴＡが「後方支援」に徹することで、生徒の活動を支えるための瞬時の対応（スピード感のある物資調達など）が可能となりました。

また、従来ＰＴＡ活動として保護者が汗を流してきた「除草作業」などについても、今後はＰＴＡが財政支援を行い、外部の専門業者等へ委託していく方向で検討を進めています。現代の保護者の間でも「時間を割いて自分たちで作業するより、外部へ委託する」ということに対して比較的寛容で抵抗感が少なく、この方針への賛同も非常に得られやすい状況となっています。

５　むすびに

朝日中学校が断行した「全部会廃止」は、単なる組織の解体や負担軽減の追求ではなく、「校内はどこまでもシンプルに、しかし周辺地域や行政とのつながり、そして子どもたちへの後方支援は強固に残す」という、これからの時代における新しいパートナーシップの形です。

伝統のある地域において、長年続いた前例を変えることには大きな葛藤と勇気が必要でした。しかし、6 年間にわたり腰を据えて課題と向き合ったリーダーシップと、コロナ禍という契機があったからこそ、実態に合わなくなった形式を手放すことができました。

「組織の形式的な維持」に追われる日々を終わらせ、生み出された時間をそれぞれの家庭へと還元する。そしてＰＴＡは、学校と生徒を迅速に支える強固なバックボーンとなる。

「前例があるから続ける」のではなく、「子どもの笑顔のために、今何ができるか」を問い続ける。

本校の実践が、全国で悩むＰＴＡ関係者の皆様の、一歩踏み出すヒントになれば幸いです。

全体会

会 場

四日市市文化会館

第１ホール



全体会

会 場　四日市市文化会館　第１ホール

オープニングアトラクション

四日市諏訪太鼓振興会 子ども諏訪太鼓

開会式

- 開会宣言
- 国歌斉唱
- PTAの歌斉唱
- 主催者挨拶
- 表彰
- 来賓祝辞
- 来賓紹介
- 祝電披露
- 次期開催地紹介
- 開式のことば

記念講演

強く生きるためのヒント

～野々村友紀子が伝えたい人生で大事なこと～

講師　**野々村友紀子**氏

閉会式

- 感謝状贈呈
- お礼のことば
- 閉会宣言



四日市諏訪太鼓振興会　子ども諏訪太鼓

昔、信州諏訪大社から御分霊を迎えて四日市市に諏訪神社が祀られたことより昭和35年、四日市港まつり（現、大四日市まつり）を復興させるため長野県岡谷市の御諏訪太鼓宗家故小口大八氏の指導を受けて四日市諏訪太鼓ができました。

その後の太鼓練習、演奏活動により四日市市民にも認められ昭和40年に四日市諏訪太鼓振興会が発足し、会員も企業、有志、子ども会など30チーム以上にもなり、春、夏、秋のまつり、地域のイベント等、四日市市の郷土芸能として市民に親しまれています。

日頃は太鼓練習、会議等、各小学校（浜田、中央、中部西）施設を利用させていただいており、子ども、父兄、指導者等、感謝、太鼓を楽しんでいます。

この度、第82回日本PTA東海北陸ブロック研究大会三重大会、オープニングアトラクションの演奏にあたり四日市諏訪太鼓振興会、子ども会全チームにて務めさせていただきます。大四日市まつり子ども諏訪太鼓合同演奏をお楽しみください。

記念講演

強く生きるためのヒント
～野々村友紀子が伝えたい人生で大事なこと～

講師　**野々村友紀子氏**



歯に衣着せぬコメントが大人気！放送作家としての仕事をしながら家庭では２児の母として奮闘。くじけない心を持ち、魅力的に生きる野々村さんが、強く生きるためのヒントを笑いあり涙ありでお話しいたします。仕事で悩んだ時、子育てに迷った時に背中を押してくれる講演です。

■1974年８月５日生まれの放送作家。
大阪府出身。２丁拳銃・修士の妻。芸人として活動後、放送作家へ転身。現在は吉本総合芸能学院（NSC）東京校の講師、書籍・脚本等の作家業に加え、メディア出演などタレントやコメンテーターとしても活躍中。主な著書に「強く生きていくために あなたに伝えたいこと」（産業編集センター）、「夫が知らない家事リスト」（双葉社）がある。

日本PTA東海北陸ブロック協議会

情報交換会要項

日　時　令和８年６月12日（金）午後

会　場　津市中央公民館ホール

参加者　各県市PTA連合会・協議会
会長・副会長・事務局長

会　議

協議題「各県市Ｐ連の現状と課題」

●司会進行●	三重県ＰＴＡ連合会	副会長	飯田彩乃
●発表者●	富山県ＰＴＡ連合会	会長	石田圭市郎
	岐阜県ＰＴＡ連合会	会長	上原真吾
	名古屋市立小中学校ＰＴＡ協議会	会長	青木総平
	愛知県小中学校ＰＴＡ連絡協議会	会長	竹下修平
	福井県ＰＴＡ連合会	会長	児玉勝
	石川県ＰＴＡ連合会	会長	泉博之
	三重県ＰＴＡ連合会	会長	木原剛弘
●記録者●	三重県ＰＴＡ連合会	事務局長	三浪秀信

富山県

「ワンチームとやま　持続可能なPTAを未来につなげよう」

富山県PTA連合会
会長　　石　田　圭市郎

1．はじめに

富山県PTA連合会は、家庭・学校・地域における子どもの健全育成を図るため、14地区協議会及び235校の単位PTA相互の連携強化に努め、それぞれのPTA活動の充実・活性化を下支えする組織という考えで活動を展開しています。

2．活動方針

【 基本理念 】子どもは、家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く
【 目　　的 】地域と協力することで、児童生徒の健全育成と教育環境の充実を図る
【スローガン】ワンチームとやま　持続可能なPTAを未来につなげよう
県内各地のPTAの相互連携の強化や協力に励み、地域全体の絆を深め、「ワンチームとやまPTA」を目指します。

3．活動内容

(1) 県内各地のPTAとの相互連携・協力の強化に関する事業
・ワンチームとやま推進検討会議を実施し14地区の相互連携を強化します。
(2) 将来を見据えた意見交換や情報共有による県内各地のPTAを啓発する事業
・研究指定PTA発表、会員大会を実施し意見交換、情報共有を強化します。
(3) より広範な教育環境の改善を行政に要望・提案する事業
・各懇談会、要望書の作成・提出を行い行政と連携強化します。
(4) 時代に即した会員への研修・広報に関する事業
・会長研修会、広報実技研修会の実施と広報紙、webサイトによる正しい情報発信を強化します。
(5) 教育機関・社会教育団体等との相互連携や協力に関する事業
・各団体の会議に積極的に参加し相互連携を強化します。
(6) その他、目的達成に必要な事業
・第83回東海北陸ブロック研究大会富山大会（2027年）の開催に向けて実行委員会を立ち上げ、支援します。

4．今後の課題

少子化に伴う会員数の減少によって、財源や人材の確保が困難となってきている。またコロナ禍以降の活動環境の変化によってPTAの在り方も変化してきている。今後、組織、事業、財源等の在り方について各単位PTAにおいて検討が必要となる。また、喫緊の課題として任意制度の導入についてがあげられる。

岐阜県

「子どもたちといっしょに」つながりを広げる岐阜県PTA

岐阜県PTA連合会
会長　　上　原　真　吾

1．はじめに

私たちを取り巻く暮らしや働き方は大きく変化し、PTA活動への関わり方にも多様な形が求められる時代となりました。一方で、子どもたちを中心に、家庭・学校・地域がつながることの大切さは、これからも変わるものではありません。

岐阜県PTA連合会では、「子どもたちといっしょに」を合言葉に、誰もが無理なく関われるPTAのあり方を目指してまいります。

県P連を離れたPTAを含め、多様な立場の声に耳を傾け、対話やつながりを大切にしていきたいと考えています。

県P連の活動は、多くの役員や関係者の支えによって成り立っています。会議では、単なる報告にとどまらず、県内PTAの実情や思いを共有し、互いに学び合える交流の場づくりを進めてまいります。

さらに、必要な情報を適切に共有しながら、互いに支え合い、無理なく関われる連合会づくりと組織力の向上を目指してまいります。

2．活動方針（目標）

「子どもたちといっしょに」を合言葉に手と手を取り合い、つながりの輪を広げる岐阜県PTA

3．活動内容

（1）定期大会

ア　県内PTAが集い教育関係者と共に連合体が目指す方向性の意思統一
イ　講師は、関正樹氏。演題は、「思春期の子どもたちとメンタルヘルス」
ウ　県内PTAの表彰発表。優れた実践や活動を広く共有し今後の活動推進につなげる

（2）研究大会

ア　飛騨市発祥の「学校作業療法室」子どもたちに寄り添う作業療法士の講演での学び
イ　グラフィックレコーディングを使い３会場に分散しても実践発表を共有できる会場設計
ウ　大人も子どももいっしょに楽しめるワークショップの開設

（3）地区懇談会

ア　地区PTA連合会役員と県PTA役員の意見交換会及び交流会（６地区にて開催予定）
イ　地区ごとの実情や意見を把握し、県内PTAの連携強化につなげる

（4）専門委員会

ア　県内PTAの実情や課題を調査研究し、情報共有や交流を行う常置委員会
イ　優れた実践や活動を共有し、学び合いにつなげる表彰選考委員会

（5）見舞金給付会

ア　児童生徒等の事故や災害に対する見舞金給付の審査及び機関紙の発行
イ　保険対応が難しい場合でも支えとなる制度として、見舞金給付制度の周知を図る

4．今後の課題

（1）県P連を離れたPTAとの対話やつながりの継続
（2）PTAが必要な情報を適切に共有できるしくみづくり
（3）県内PTAが互いに学び合い、支え合える関係づくり

名古屋市

名古屋市立小中学校PTA協議会の現状と今後の課題

名古屋市立小中学校PTA協議会
会長　　青　木　総　平

1．はじめに

名古屋市立小中学校PTA協議会は、学校・家庭・地域社会における子どもの健全育成を図るため、16区PTA協議会及び367校の単位PTA相互の連携を深め、それぞれのPTA活動の充実・発展を援助するという考えに立って活動を展開しています。

2．活動方針（目標）

（1）魅力的なPTA活動を目指して

ア　共に学び交流し、実践に生かせる活動を提案します。

イ　時代にあったPTAの組織・活動への変革を目指します。

ウ　単位PTAの活動を適正化・活性化するための情報発信・情報共有・情報交換を積極的に行います。

エ　市教育委員会はじめ関係諸機関や地域と連携して教育環境の充実に取り組みます。

〔本年度の重点目標〕

◎　子どもたちと共に学ぼう　～笑顔で築く「やさしい社会」～

3．活動内容

（1）会員・単Ｐ・区Ｐ相互をつなぎ、連携を広げ、深めるためのポジティブな取り組み

ア　区Ｐや単Ｐの役員がPTA活動に関する悩みや工夫について気軽に話せる、市Ｐ主催の「PTAカフェ」を３回開催しました。今回は夜カフェを開催するなど、和やかな雰囲気の中、積極的なコミュニケーションが生まれ、多くのつながりをつくることができました。

イ　令和６年度末より、市ＰのHP内に、単Ｐが取り組んだイベントや工夫した活動などを画像付きで投稿できるサイトを設け、広くその活動が共有できるようにしました。現在30件ほどが掲載されています。また、リニューアルした共済事業のポータルサイトを立ち上げ、そこから手続きを効率よく始められるようにしました。

ウ　市Ｐ主催の「名古屋市PTAバレーボール大会」を実施するとともに、来場した家庭の子どもたちを対象に「ジャンケン大会」等を行い、親睦を深めました。

（2）情報発信の効率化と情報伝達を確実に行うシステム構築の取り組み

ア　メールによる情報配信を見直し、学校現場で広く使われているメッセージ配信アプリと同じツールに市Ｐの情報配信網を整備し、確実な情報の伝達を図りました。

（3）単Ｐ・区Ｐの負担を軽減する取り組み

ア　会議を精選し、オンライン参加を増やすことで会議の負担を軽減しました。

イ　単Ｐ用の連絡網を単Ｐ個別契約から、市Ｐ一括の契約にして総経費の削減を図り、費用を市Ｐが全額負担するようにしました。

4．今後の課題

区ごとのPTA活動をどのように支え、活性化させていくかが課題です。コロナ以降、区内での情報共有の場が少なくなり、単Ｐ同士のつながりが薄れています。市Ｐの活動が契機となって区Ｐ単Ｐの活動が活性化されることを願い、市教育委員会及び関係機関・諸団体との連携をさらに深め、取り組みを続けます。

愛知県

「主題」子どもをまんなかに手をつなごう、できることから楽しもう
～家庭・学校・地域の輪～

愛知県小中学校PTA連絡協議会
会長　　竹　下　修　平

1．はじめに

本会は、尾張地区23、三河地区16、合計39の郡市Ｐ連で構成している。各郡市Ｐ連に属する単位PTA数は、合計981になる。令和７年度から掲げた主題をもとに、子どもの健全育成の一助となるよう活動している。

2．活動方針

（1）家庭・学校・地域の連携強化

ア　子どもの学びや成長を支えることができるよう、情報交換の機会を提供し、家庭・学校・地域の強固なつながりを築く支援を行う。

イ　子どもにとって安心・安全な社会環境を整えるため、行政や諸団体と連携・協働する。

（2）家庭教育力の向上

ア　親と子がともに成長するための講演会・研修会などを開催し、親の学びの機会を設ける。

イ　あたたかい愛情を基盤に、子どもの成長と自立を支えられる家庭のあり方について学び、よりよい生活となる取り組みをすすめる。

（3）学校支援の充実

ア　子どもの健やかな成長を促す教育環境を充実させるため、行政など関係諸機関へ働きかける。

イ　学校教育への理解を深め、教育活動に協力する。

（4）PTA活動への支援

ア　PTA活動の意義を共有し、本協議会ならではの横のつながりを生かし、研修と相互交流の場を提供する。

イ　PTA活動を安心して行うための事業を実施し、県内のPTA活動を支える。

3．活動内容

（1）各種事業

ア　県内10会場で情報交換事業を行い、PTA活動のあり方等について意見交換する。

イ　家庭教育委員会研修会や教育講演会を行い、会員の家庭の教育力向上を図る。

ウ　「いじめ防止標語コンテスト」などを企画し、人権と命の尊重普及啓発活動に努める。

エ　スケールメリットを活かした安全互助事業・小中学生総合保障制度の運営に努める。

（2）研究大会

ア　第82回日本PTA東陸ブロック研究大会三重大会に参加し、見聞を広める。

イ　尾張・三河研究発表大会を開催し、よりよいPTA活動のあり方を探る。

（3）情報発信

ア　「愛知のPTA」の発行やホームページを通し、様々な情報発信をする。

イ　教育機関や関係団体と連携し、子どもたちの健全育成の環境を整える。

4．今後の課題

（1）少子化や任意加入等により会員数が減少し、事業費や会費の見直しをする必要がある。

（2）PTA活動が安心してできるために、安全互助事業のメリットをより理解してもらう。

（3）より効率的な広報のし方や連絡方法などについて検討し、改善を図る。

福井県

おとなの幸せが　こどもの幸せ

福井県PTA連合会
会長　　児　玉　　勝

1．はじめに

「できることを、できる人が、できる形で」、楽しみ無理のない範囲で活動し、つながりながら、こどもまんなか社会を目指す。

2．活動方針

（1）子ども、保護者、教職員、地域住民がコミュニケーションを深め、子どもたちの幸せのため笑顔あふれるPTA活動の促進に努める。

（2）心身共に健やかな児童生徒の育成を願い、早寝・早起き・朝ご飯・あいさつ等、規則正しい生活習慣の確立を推奨する。

（3）いじめ、SNS問題、不登校、虐待、不審者、防犯、防災等への対策を講じると共に命の尊さを知らせ、子どもたちの安全・安心の確保と環境改善、啓発推進に努める。

（4）おとなが幸せでいられる環境整備を目指し、PTA活動の領域を学校と家庭にとどめず、行政や企業、地域社会、専門機関等の協力を要請しながら、こどもの幸せを育むPTA活動を目指す。

（5）県Ｐ連活動の透明化を図るために必要な情報発信を行うとともに、関連する各種事業への支援や、情報・資料の共有と提供に努めながら、県内PTAの交流と研修の場の提供を行う。

3．活動内容

（1）学ぶ

幼小中PTA活動地区別研修会…家庭教育講演会、実践発表。
県Ｐ連研究大会…講演会、県教委連携　※闇バイト被勧誘体験（レイの失踪）
日Ｐ全国研究大会奈良大会、東海北陸ブロック研究大会三重大会参加

（2）つながる

関係機関、団体との教育懇談会…学校、地域の教育環境等の現状や課題の情報共有
関係団体との連携協力…教育条件整備を求める県議会への請願
保護者と教職員の協力…教職員とのフリートーク、教育課題をテーマとしたセミナー
県行政及び議会等での教育関係事項の情報収集と分析…議会傍聴、情報共有
ラインのオープンチャットを活用した情報共有の場を構築

（3）単Ｐ、保護者の応援

単Ｐ活動支援…活動事例紹介、研修講師紹介、活動経費助成、安全会事業
広報紙づくり講習会、広報紙コンクール
家庭教育支援…「一筆啓上（家族のメッセージ）」事業

（4）組織運営の改善

委員会活動の推進…本会の適正な運営並びに諸事業・諸活動の的確な実施を図るために、諸委員会・諸会議等による連絡・協議・研究・調査・調整活動等を行う。

4．今後の課題

人々の生活スタイルや価値観の変化、ICTなどの技術の発達など、近年のこどもたちが置かれている環境は私たち保護者が知るものとは大きく異なり、SNSを介してのトラブルや不登校児童生徒は増加の一途をたどっている。PTAもそれに応じた役割、在り方に変えていくことが必要。

加えて、部活動の平日の地域移行が見据えられる中、社会全体でこどもの居場所を確保していくことが重要になると考えられる。そのためにも、こどもまんなか社会の実現など、国や地方自治体で進められる施策に対しアンテナをはり、各種施策や民間事業者等への支援などを求めるほか、行政に保護者の声を届ける取り組みが必要。

石川県

石川の子どもたちの未来を、みんなで考え行動しよう！

石川県PTA連合会
会長　　泉　　博　之

1．はじめに

（1）石川の子どもたちの未来を考える

子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している。コロナ禍から始まったギガスクール構想のもとでの一人一台端末を使った学習、教職員の働き方改革に伴う様々な学校での取り組みや変化、中学校部活動の地域移行に関する動きなど、我々保護者が過ごした子ども時代では考えられないような環境の変化が、今子どもたちの目の前に存在している。とくに、石川県では令和６年能登半島地震や能登豪雨災害の影響による、学ぶ環境の変化や学校の統廃合など、加速度的に環境の変化を余儀なくされた地域もある。子どもたちが楽しく安全に学びを受ける環境整備は大切なことであり、将来の日本の国力になる重要なこと。行政や学校だけに任せるのではなく、保護者もともに議論し考え行動することこそがPTA活動の原点であると考える。

2．活動方針（目標）

（1）緊密な連携の推進（連携する）
（2）時代に適合したPTA活動の推進（適合する）
（3）組織の充実と健全な財政の確立（持続する）

3．活動内容

（1）総務委員会
① 石川県PTA連合会・安全会の発展のために、組織・資産・運営の充実整備を推進する。
② 会員の減少を見据え、将来の石川県PTA連合会の組織のあり方について検討を進める。

（2）研修委員会
① 学校の教育方針の理解を深め、地域の関係機関と協力しながら、よりよい教育環境の充実や教育活動への積極的な支援を推進する。
② 保護者としてまたPTA会員としての資質向上を図るため、研修会や研究発表会等の企画・運営に努める。

（3）子ども教育環境委員会
① ネット社会が引き起こすさまざまな問題から子どもたちを守るために、ケータイ・スマホ・タブレット端末等の情報モラルを子どもたちに身につける取り組みを進める。
② 関係機関と連携し、子ども達の安全･安心の地域づくりのための取り組みを推進する。

（4）いしかわネットワーク委員会
① PTA活動（日本Ｐ協、県Ｐ連、市町Ｐ連等）に関する情報・資料の収集を行い、ホームページや広報紙の活用等により情報発信する。

（5）家庭教育委員会
① 子育ての原点は家庭であることを再認識し、基本的生活習慣、他者に対する思いやりや優しさ、善悪の判断などは家庭が責任者であることを共通認識とし家庭の教育力の向上を目指す。

4．今後の課題

（1）
① 能登半島の復旧復興のために、PTAはどうかかわっていけるか。
② 子どもたちの安心・安全のためのPTAのできることとは。

三重県

子どもたちの輝く未来のために！

三重県PTA連合会
会長　　木　原　剛　弘

1．はじめに

三重県ＰＴＡ連合会の会則第３条は会の目的を「家庭と学校と社会における園児・児童・生徒の健全な成長を図る」と規定しています。私たちはこの活動の目的を改めて確認する必要があるのではないでしょうか。76年目を迎える私たちの三重県PTA連合会は、その長い歴史のなかで、先人たちは常にこの目的を胸に活動を続けてきました。その活動の原点は「子どもたちの幸福」を願う想いであります。

私たちはいま「この活動はなんのためにあるのか」という問いに答えなければなりません。

この問いに答え続ける覚悟と、三重県PTA連合会が大切にしている「子どもたちのために」との想いを込め、引き続きスローガンを「子どもたちの輝く未来のために！」としました。

2．活動方針（目標）

（1）県ＰＴＡは、郡市PTAとの連携を通じて単位PTAの活性化に寄与する。
（2）学校支援に理解と協力を深め、家庭教育の充実と教育環境整備に努める。
（3）郡市PTAとの情報交換を密にし、課題や要望を関係機関と協議検討する。
（4）PTA本来の意義を周知し、活動の推進を図る。
（5）子どもたちが安全－安心な生活を送れる環境づくりに努める。
（6）会員一人ひとりが参加しやすい環境づくりに努める。

3．活動内容

（1）研修会等の事業

・単Ｐ会長等研修会	６月21日（日）
・みえ子どもの未来を語る会（幼小中・高ＰＴＡ参加）	７月11日（土）
・三重県幼小中高ＰＴＡ研修会	10月６日（火）
・三重の教育を考える集い	11月14日（土）

（2）表彰事業
（3）広報事業
（4）助成事業
（5）組織力の強化
（6）外郭団体への参画

4．今後の課題

価値観が多様化していることを踏まえ、私たちの活動が「何のための活動なのか」を広く会員に周知するとともに、今後の急激な少子化を見据えた組織の在り方について検討を重ねていく必要がある。

日本PTA東海北陸ブロック研究大会の実施県・市一覧

回数	年度	実施県・市	開催地
1			
2			
3			
4	昭28	福井県	福井市
5	29	岐阜県	岐阜市
6	29	石川県	金沢市
7	30	名古屋市	名古屋市
8	31	三重県	浜島町
9	31	福井県	芦原町
10	32	愛知県	挙母町
11	32	富山県	宇奈月町
12	33	岐阜県	下呂町
13	33	石川県	片山津町
14	34	名古屋市	名古屋市
15	35	福井県	福井市
16	35	三重県	四日市市
17	36	富山県	富山市
18	37	岐阜県	美濃加茂市
19	38	石川県	金沢市
20	39	名古屋市	名古屋市
21	40	福井県	福井市
22	41	三重県	四日市市
23	42	富山県	宇奈月町
24	43	愛知県	名古屋市
25	44	岐阜県	岐阜市
26	45	石川県	金沢市
27	46	名古屋市	名古屋市
28	47	福井県	福井市
29	48	三重県	菰野町
30	49	富山県	富山市
31	50	愛知県	名古屋市
32	51	岐阜県	岐阜市
33	52	石川県	金沢市
34	53	名古屋市	名古屋市
35	54	三重県	鳥羽市
36	55	富山県	富山市
37	56	愛知県	名古屋市
38	57	岐阜県	岐阜市
39	58	石川県	金沢市
40	59	名古屋市	名古屋市
41	60	福井県	福井市
42	61	三重県	四日市市
43	62	富山県	富山市
44	63	愛知県	豊橋市
45	平元	石川県	金沢市
46	2	名古屋市	名古屋市
47	3	福井県	福井市
48	4	三重県	伊勢市
49	5	富山県	高岡市
50	6	岐阜県	岐阜市
51	7	愛知県	稲沢市
52	8	石川県	金沢市
53	9	福井県	福井市
54	10	三重県	津市
55	11	富山県	砺波市
56	12	愛知県	豊川市
57	13	岐阜県	飛騨高山市
58	14	石川県	加賀市
59	15	名古屋市	名古屋市
60	16	福井県	福井市
61	17	三重県	四日市市
62	18	富山県	富山市
63	19	岐阜県	大垣市
64	20	石川県	七尾市
65	21	名古屋市	名古屋市
66	22	福井県	福井市
67	23	愛知県	名古屋市
68	24	富山県	魚津市
69	25	三重県	伊勢市
70	26	岐阜県	下呂市
71	27	石川県	小松市
72	28	名古屋市	名古屋市
73	29	福井県	敦賀市
74	30	愛知県	刈谷市他5市
75	令元	三重県	津市
76	2	富山県	全国大会（中止）
77	3	岐阜県	岐阜市
78	4	名古屋市	名古屋市
79	5	福井県	福井市他4市
80	6	愛知県	名古屋市他1市
81	7	石川県	金沢市
82	8	三重県	四日市市他3市

日本PTA全国研究大会開催地一覧

回	開催県・市	開催年月日	開催地	ブロック名
1	三重県	昭和28年８月29～31日	宇治山田市	東海北陸
2	富山県	29年５月15～16日	富山市	東海北陸
3	静岡県	30年１月29～30日	熱海市	関　東
4	奈良県	31年11月28～29日	橿原市	近　畿
5	愛媛県	32年11月26～27日	松山市	四　国
6	北海道	33年７月26～27日	小樽市	北海道
7	山口県	34年10月25～26日	宇部市	中　国
8	福岡県	35年６月９～10日	福岡市	九　州
9	新潟県	36年９月15～16日	新潟市	関　東
10	神奈川県	37年11月18～19日	平塚市	関　東
11	岡山県	38年10月24～25日	岡山市	中　国
12	東京都	39年８月18～19日	東京都台東区	東　京
13	東京都	40年11月28～29日	東京都渋谷区	東　京
14	静岡県	41年11月15～16日	熱海市	関　東
15	長野県	42年８月22～23日	長野市	関　東
16	福島県	43年８月８～９日	福島市	東　北
17	北海道	44年８月７～８日	札幌市	北海道
18	鹿児島県	45年11月16～17日	鹿児島市	九　州
19	石川県	46年８月19～20日	金沢市	東海北陸
20	東京都	47年８月24～25日	東京都文京区	東　京
21	栃木県	48年８月24～25日	宇都宮市	関　東
22	福岡県	49年８月23～24日	北九州市	九　州
23	香川県	50年８月22～23日	高松市	四　国
24	岩手県	51年８月20～21日	盛岡市	東　北
25	北海道	52年８月26～27日	札幌市	北海道
26	山口県	53年８月７～８日	山口市	中　国
27	福井県	54年８月３～４日	福井市	東海北陸
28	大分県	55年８月21～22日	大分市	九　州
29	和歌山県	56年８月25～26日	和歌山市	近　畿
30	東京都	57年８月25～26日	東京都	東　京
31	徳島県	58年８月29～30日	徳島市	四　国
32	青森県	59年８月24～25日	青森市	東　北
33	横浜市	60年８月29～30日	横浜市	関　東
34	北海道	61年８月22～23日	旭川市	北海道
35	広島県	62年８月21～22日	広島市	中　国
36	岐阜県	63年８月25～26日	岐阜市	東海北陸
37	沖縄県	平成元年８月24～25日	沖縄県	九　州

回	開催県・市	開催年月日	開催地	ブロック名
38	大阪府・市	２年８月24～25日	大阪府・市	近　畿
39	高知県	３年８月22～23日	高知県	四　国
40	群馬県	４年８月20～21日	群馬県	関　東
41	山形県	平成５年８月20～21日	山形県	東　北
42	島根県	６年８月19～20日	島根県	中　国
43	札幌市	７年８月25～26日	札幌市	北海道
44	名古屋市	８年８月23～24日	名古屋市	東海北陸
45	大分県	９年10月16～17日	大分市・別府市	九　州
46	神戸市	10年８月21～22日	神戸市	近　畿
47	愛媛県	11年８月20～21日	愛媛県	四　国
48	山梨県	12年８月25～26日	山梨県	関　東
49	秋田県	13年８月31～９月１日	秋田県	東　北
50	埼玉県	14年８月23～24日	埼玉県	関　東
51	鳥取県	15年８月29～30日	鳥取県	中　国
52	北海道	16年８月27～28日	旭川市・上川郡	北海道
53	愛知県	17年８月26～27日	愛知県	東海北陸
54	宮崎県	18年８月26～27日	宮崎県	九　州
55	滋賀県	19年８月24～25日	滋賀県	近　畿
56	香川県	20年８月23～24日	香川県	四　国
57	宮城県	21年８月21～22日	宮城県	東　北
58	千葉県	22年８月27～28日	千葉県・市	関　東
59	広島県	23年８月26～27日	広島県	中　国
60	京都市	24年８月24～25日	京都府・市	近　畿
61	三重県	25年８月23～24日	伊勢市・四日市市他	東海北陸
62	長崎県	26年８月22～23日	長崎市・諫早市他	九　州
63	北海道	27年８月21～22日	札幌市	北海道
64	徳島県	28年８月20～21日	徳島市	四　国
65	仙台市	29年８月25～26日	仙台市	東　北
66	新潟県	30年８月24～25日	長岡市	関　東
67	兵庫県	令和元年８月23～24日	神戸市	近　畿
68	富山県	２年（　中　止　）	富山県	東海北陸
69	北九州市	３年８月21日	北九州市	九　州
70	山形県	４年８月26～27日	山形市・酒田市他	北海道・東北
71	広島県	５年８月25～26日	広島市・福山市他	中国・四国
72	川崎市	６年８月23～24日	川崎市	関　東
73	石川県	７年８月22～23日	金沢市、他	東海北陸
74	奈良県	８年８月21～22日	天理市、他	近　畿

大会役員・実行委員会

大会役員

大会長	木原　剛弘	日本PTA東海北陸ブロック協議会　会長 三重県PTA連合会　会長
大会副会長	石田　圭市郎	富山県PTA連合会　会長
	上原　真吾	岐阜県PTA連合会　会長
	青木　総平	名古屋市立小中学校PTA協議会　会長
	竹下　修平	愛知県小中学校PTA連絡協議会　会長
	児玉　勝	福井県PTA連合会　会長
	泉　博之	石川県PTA連合会　会長
大会推進委員	小川　直子	富山県PTA連合会　事務局長
	林　恵哲	岐阜県PTA連合会　事務局長
	榊原　貴久	名古屋市立小中学校PTA協議会　事務局長
	吉田　雅仁	愛知県小中学校PTA連絡協議会　事務局長
	坪田　憲泰	福井県PTA連合会　事務局長
	辻　和久	石川県PTA連合会　事務局長
大会委員	第82回日本PTA東海北陸ブロック研究大会三重大会実行委員	
大会事務局	三浪　秀信	三重県PTA連合会　事務局長
	河野　由佳	三重県PTA連合会　事務局主幹

大会実行委員会

■実行委員長	里中　祐介			
■副実行委員長	飯田　彩乃	朝日　秀道	磯和　雅志	
■顧　問	杉戸　雅巳	駒田　昌彦	松島　克幸	安田　悦子
	山羽賢多郎			
■参　与	石川　禎紀			
■総務渉外部長	山田　純也			
■総務渉外副部長	浦田　宗昭			
■広報部長	南牟礼真理			
■広報副部長	本橋　良介			
■全体会部長	坂　英郎			
■全体会副部長	吉楽　直弥			
■分科会部長	佐久間淳司			
■分科会副部長	北川　昌司			
■第１分科会会場責任者	水谷　彰宏			
■第２分科会会場責任者	上村　幸世			
■第３分科会会場責任者	吉楽　直弥			
■第４分科会会場責任者	徳永　里美			
■第５分科会会場責任者	岩﨑　翔太			
■第６分科会会場責任者	矢野　裕美			
■実行委員	田中　望	宮地　弥生	村田多恵子	早川　美恵
	橋爪　秀貴	前川　久代	山路　幸輝	山本　政輝
	内田　真	川原　康誉	石井可奈子	森本　悠揮
	堀川　真澄	村田　陽太	大西　弘展	井村　泰典
	森田　和樹	東　力也	大門　長正	北藪　正太
■会計監査	岸田　諭祀	森　崇		

第82回　日本PTA東海北陸ブロック研究大会
三重大会要項

発行日　令和８年10月30日

発行者　日本PTA東海北陸ブロック研究大会
三重大会　　大会長　木原　剛弘

三重県PTA連合会
〒514-0061　三重県津市一身田上津部田1234
三重県生涯学習センター２階

編　集　三重大会実行委員会

印刷所　有限会社 盛功社印刷
〒514-0031　三重県津市北丸之内77